

DEW
stream 2017

Planning, Design, and Consulting
SHIMIZU CORPORATION

vol.77

- 02 - 05 オーシャンゲートみなとみらい
06 - 09 清水建設 ものづくり研修センター
10 - 13 sitatte sapporo 札幌フコク生命越山ビル
14 - 15 スノーピーク オペレーションコア HQ2
16 - 17 高岡信用金庫本店
18 - 19 流通経済大学 龍ヶ崎キャンパス 2号館
20 - 21 横浜野村ビル
22 - 23 ドーミーイン宮崎
24 - 25 リンナイ北海道支店
26 - 27 JRさいたま新都心ビル
28 (仮称)ソラリア西鉄ホテルバンコク
29 ジャカルタ・オフィスタワープロジェクト(仮称)
30 - 31 フクラシア八重洲
32 - 33 愛育レディースクリニック
34 - 35 順天堂大学医学部附属浦安病院 3号館
36 - 37 国際基督教大学 横濱・楓寮
38 - 39 ホテルニューグランド本館改修工事
40 - 41 沢井製薬 三田西工場
42 - 43 グランドメゾン浄水ガーデンシティ フォレストゲートI
44 - 45 真宗大谷派 緑雲寺 本堂・客殿庫裡
46 - 47 JR北海道社員研修センター
48 - 49 神戸薬科大学 8号館
50 - 51 稲田クリニック
52 - 53 東芝機械御殿場テクニカルセンター
54 - 55 日立物流ビル
56 - 57 デンタルプラザ大阪 ショールームリノベーション
58 横浜スタジアムプロジェクト
59 目黒清掃工場建替計画
60 - 61 豊洲まちづくり物語
62 - 63 2017年度日本建築学会技術部門設計競技「オトノカサ」
64 - 66 作品データ・委員一覧
67 組織表

DEW
stream 2017

ひとりひとりのDEW、それぞれの想い
—近作プロジェクトを通じて—

vol.77

世代を超えるコラボレーション

—「ゆらぎの建築」をテーマに—

OCEAN GATE MINATOMIRAI
HIROSHI IMAI / MATASABURO MURAKAMI / YOSHITO MORI / MOTONORI KODOI
HIROMI SHIMOSAKA

及川 (DEW) みなとみらい
21の32街区に計画されたOCEAN
GATE MINATOMIRAIで、担当さ
れた意匠メンバーに集まってもら
いました。グループ長・設計長・
若手メンバーでのようなコラボ
レーションをし、この建築が実現
したのか、振り返っていただきた
いと思います。

小上井 元規 意匠設計 2013年入社
下坂 裕美 意匠設計 2016年入社
今井 宏 意匠設計 1996年入社
村上 又三郎 意匠設計 1999年入社
森 亮人 意匠設計 2006年入社

村上 私は、今回のプロジェクト
で、私自身も良い経験が積めま
したし、今日来ている若手メン
バーとも良い時間を過ごせまし
た。森さんとはプロジェクト全般
にわたり、小上井さんとは外装、
下坂さんは屋上庭園・サイエン
エントランスについてです。
まず小上井さんですが、設計中は
「ゆらぎ」というテーマに、今井
さんとファサードをスタディした
と聞きます。私が彼に対する印象
が強いのは、監理中のファサード
の通風を促進するガラスフィンの
柄のスタディでした。



OCEAN GATE MINATOMIRAI

小上井元規

意匠設計
2013年入社

下坂裕美

意匠設計
2016年入社

今井宏

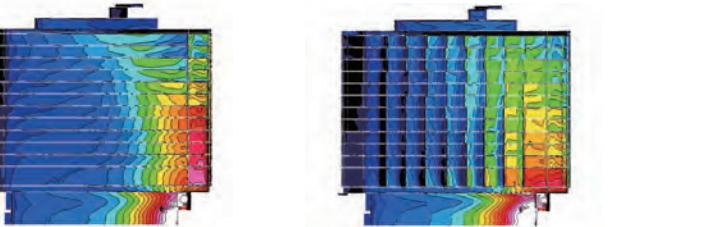
意匠設計
1996年入社

村上又三郎

意匠設計
1999年入社

森亮人

意匠設計
2006年入社



3
vol.77

小上井 そもそもこれはヨットの帆のようなウインドキャッチャーであることに立ち返り、帆の織維をイメージしたデザインを検討し始めて風や水のゆらぎもイメージしてのものです。

今井 不均質なことが環境的であるというのと、ミナトまちであるので風や水のゆらぎもイメージしてのものです。

小上井 フィンを支持したり、解析、メカとの調整、テクニカルなことは村上さんによるのですが、このガラスフィンはオフィス空間にはっとできる優しさがあり、とても満足しています。



4
vol.77

家族に誇れるじゅう

森 私にとってこのファサードは夜間の照明点灯の時が特に印象深いです。

監理段階からでしたが、施主に対して提案をしました。夜間にもゆらぎが違うからで表現できないが、各階の底が大きく出ている部分をガラスフィンの下から照りしあげたものです。改めて見るど、周囲のマンションや病院、ホテル、ホールなどの夜景と合うのです。まさにゆらぎが街をつなげているのです。

村上 竣工時に施主の担当の方々と点灯の試験をしましたが、自分以上に皆さん感嘆され、歓びを分かち合いました。設計者の醍醐味です。

森 さらに、駐車場の外装の検討は記憶に強く残っています。田隠としての機能と、ゆらぎのイメージを開発するとともに、駐車場の法的要件を両立することに、いくつもハーフルがありました。駐車場と連続する車寄せや天井部分のルーバー壁の形状にもこだわり、竣工後に自分の家族を案内した際、駐車場をとても良いと言つてもらえて非常に嬉しかったのを覚えています。

よりよいものを

及川 下坂さんは新入社員でかかわったのでしたね。

下坂 私は当初、監理段階の詰めの時期で、村上さんと貴重な経験をさせていただきました。田隠しの機能と、ゆらぎのイメージを開拓するとともに、駐車場の法的要件を両立することに、いくつもハーフルがありました。駐車場と連続する車寄せや天井部分のルーバー壁の形状にもこだわり、竣工後に自分の家族を案内した際、駐車場をとても良いと言つてもらえて非常に嬉しかったのを覚えています。

下坂 私は木でやりたいとついてお話しします。

ガーデンオフィスというコンセプトから、自然素材が合っていると思い、木材をぜひ使っていきたいと考え、村上さんに木でやりたいと伝えました。

ひとつひとつ形に

下坂 フローリング材をサインに使う。その木の表情のパターンにこだわりました。波のようなゆらぎだ表現が作り出せないか、常に考えていました。ですが実施設計図はそうではなく、今はやめておこうと考えていました。ですが下坂さんに言われた一言で考え直したんですよ。「なんで諦めちゃうんですか」と。このときから、サイン計画の見直しを決意しました。

村上 実は私も木でやりたいと考えていました。ですが実施設計図はそうではなく、今はやめておこうと考えていました。ですが下坂さんに言われた一言で考え直したんですよ。「なんで諦めちゃうんですか」と。このときから、サイン計画の見直しを決意しました。

歓びのあるじゅう

村上 他に屋上庭園、一階エントランス等、ガーデンオフィス、ゆらぎ、グラデーションといつたテーマをふくらませ、施工・施工関係者・ランドスケープのフィールドフォームの方々とも、まさに共に創った感覚です。横浜みなとみらいらしい風・海・そしてゆらぎを感じるオフィスができました。シミズというチームで建築を設計し、実現して、ここで話している。とても歓びのある仕事だと思います。



空と海、自然のゆらぎを感じる屋上庭園で



豊かな外部環境を味わうエントランス、しかけとしてのビッグファーニチャー



オフィス階エレベーターホールフロアマップ前で



東側外観、手前が駐車場



照明でまちをつなぐ

SHIMIZU MONOZUKURI TRAINING CENTER KAZUTOMO OHASHI / KYONH PAKU / YOSHINOBU TODA / MASASHI OOTAWA / KAZUHIRO SAKAGUCHI / KENTARO KOMAE

挑戦しつづける設計者たち

—若手設計者とエキスパートの取り組み—

若手とベテランの コミュニケーション

及川 (DEW) 木工場の中に新設された、清水建設ものづくり研修センターについて、設計を担当していたみなさんに当時のことを振り返ってお話しして頂きたいと思いました。

このプロジェクトでは特に若手設計者とベテラン設計者の「コミュニケーション」が密に行われていたと聞いています。実際どのように進められていきましたか?

意匠設計

及川 (DEW) この建物は、P.C.a・鉄骨／外装・鉄筋／型枠の3つのモックアップを収容する研修施設です。規模は小さいですが社内の研修センターとしてこので大切なプロジェクトでした。意匠・構造・設備で若手設計者とベテランがペアとなり若手を育てながら、社員のお手本となる建築をつくり込んでいます。朴君には、事例収集から分析等の作成まで最初から積極的に参加してもらいました。

朴 (研修センターの着想から参考していましたが、私にとって部署が異動になってから初めての案件だったので、わくわくしながら担当させてもらいました。木工場の敷地内に新設するということで、木を使った和風の「デザイン」を含め、集めた事例を参考にしながらC.Gや模型で検討しました。

大橋 建築的には2層吹抜のモックアップを配置した研修室を中心に諸室をレイアウトしたオーネントプランで、外観も庇とルーバーによる日射コントロールを行うスタンダードな手法です。構造や設備を見せるとともに、現場での省力化のため溶接をなくし外装をユニット化



大橋一智 意匠設計 1999年入社
朴敬熙 意匠設計 2010年入社
戸田芳信 動機設計 1989年入社
大多和真 動機設計 2014年入社
坂口和大 構造設計 2015年入社
小前健太郎 構造設計 1996年入社

意匠設計

及川 (DEW) 木工場の中には、意匠設計者とベテラン設計者の「コミュニケーション」が密に行われていました。実際どのように進められていきましたか?



及川 構造としては、鉄骨の架構を一切溶接のない納まりとしたのですが、どのようにして実現したのでしょうか。坂口さんが主に担当した内容もお聞かせください。

小前 まず、なぜ溶接の無い架構かなどと、今後の溶接技能者の減少に対する対応と現場での省力化が、今後のものづくりの方向性の一つと考えたからです。全てボルトで接合された架構は、特別な技能や資格を持つ了技能者・鉄骨アブリケーターを必要とせずに鉄骨製作が

溶接のない納まり

及川 構造としては、鉄骨の架構を一切溶接のない納まりとしたのですが、どのようにして実現したのでしょうか。坂口さんが主に担当した内容もお聞かせください。

小前 まず、なぜ溶接の無い架構かなどと、今後の溶接技能者の減少に対する対応と現場での省力化が、今後のものづくりの方向性の一つと考えたからです。全てボルトで接合された架構は、特別な技能や資格を持つ了技能者・鉄骨アブリケーターを必要とせずに鉄骨製作が



意匠設計

及川 (DEW) 木工場の中には、意匠設計者とベテラン設計者の「コミュニケーション」が密に行われていました。実際どのように進められていきましたか?

及川 (DEW) 木工場の中には、意匠設計者とベテラン設計者の「コミュニケーション」が密に行われていました。実際どのように進められていきましたか?

可能です。取り組みはシンプルですが、実際には大変なことが予想されました。坂口君は取り組んだことの無い仕事でも果敢に挑戦する意気込みを感じたので、担当をお願いしました。

坂口 最初の配属後で右も左もわからぬまま担当することになりました。最初は構造設計は何をするのかよくわからない、構造計算をして計算書をつくるのが仕事なのかと思っていました。実際は柱・梁の接合部のティールはもちろん、外壁・階段など意匠設計と相談しながら納まりを考え、施工出来るものを計画していくことが学べました。

大橋 ほとんどの部分が見えるので、担当者間でのやり取りが多かつたです。

坂口 はじめは小前さんと一緒に、大橋さんとの打合せに参加していましたが、どうやら徐々に私だけで大橋さんと打合せるようになりました。自分で検討すると出来ないことも、小前さんに相談するとなります。やはりプロだなと思いました。

社員のお手本となる建築

及川 設備についても天井を一部貼らないことで、天井内の設備等の納まりを見せるようになっていますが、どのような工夫があったのでしょうか。

戸田 この建物の設備は、若手社員が直接見て学べる研修コントロールひとつとなっていています。各部署から様々な要望が出ましたが、最終的には設備を見せるための設計というよりも、本來隠してしまった天井内等をそのまま見せることにしました。

坂口 はじめは小前さんと一緒に、大橋さんとの打合せに参加していましたが、どうやら徐々に私だけで大橋さんと打合せるようになりました。自分で検討すると出来ないことも、小前さんに相談するとなります。やはりプロだなと思いました。

大橋 ほとんどの部分が見えるので、担当者間でのやり取りが多かつたです。

坂口 はじめは小前さんと一緒に、大橋さんとの打合せに参加していましたが、どうやら徐々に私だけで大橋さんと打合せるようになりました。自分で検討すると出来ないことも、小前さんに相談するとなります。やはりプロだなと思いました。

及川 設備についても天井を一部貼らないことで、天井内の設備等の納まりを見せるようになっていますが、どのような工夫があったのでしょうか。

戸田 この建物の設備は、若手社員が直接見て学べる研修コントロールひとつとなっていています。各部署から様々な要望が出ましたが、最終的には設備を見せるための設計というよりも、本來隠してしまった天井内等をそのまま見せることにしました。

坂口 はじめは小前さんと一緒に、大橋さんとの打合せに参加していましたが、どうやら徐々に私だけで大橋さんと打合せるようになりました。自分で検討すると出来ないことも、小前さんに相談するとなります。やはりプロだなと思いました。

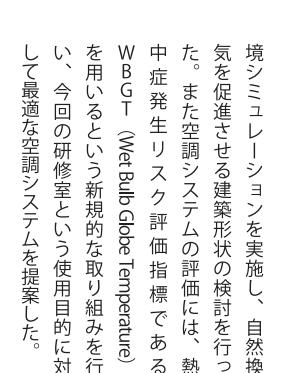
及川 朴さん、大多和さん、坂口さんに若い時期にこのような案件を担当した感想を伺わせてください。

大多和 若手社員の教材・見本になるような建物を設計・監理する仕事だったので、人よりも技術シートや標準詳細図をしっかりと見て勉強するいい機会となりました。今担当しているプロジェクトに活きてるなと思うことがあります。入社当時は、このようなプロジェクトを若手に担当させてもられるとは思っていませんでした。本当に良い経験を積むことができたと思います。

坂口 入社後初めてのプロジェクトでしたが小前さんのところで指導されながら、竣工まで楽しく担当することができます。接合部のディテールをはじめ、意匠・設備との納まり一つひとつを考え、どのように建築をつくるのかを学べました。一番最初にこのプロジェクトを担当できとても勉強になりましたし、今後ずっと財産になると思います。

朴 担当する前は構造のことは漠然と理解していたつもりでしたが、小さい部材一つひとつが力の流れを忠実に表現しているとわかつてきました。知らない分野のプロがそばにいる環境はすごいと思います。この力を合わせて世の中、世界に誇れる、美しい建築がデザインできました。子どもにもいつか見させたい建物のひとつです。

大橋 シミズでは、若手とベテランが活躍しており、全員が活躍できる場所がシミズにあると思います。



境シミュレーションを実施し、自然換気を促進させる建築形状の検討を行つた。また空調システムの評価には、熱中症発生リスク評価指標であるWBGT (Wet Bulb Globe Temperature) を用いるという新規的な取り組みを行い、今回の研修室といふ使用目的に対して最適な空調システムを提案した。

大多和 当時2年目から3年目にかけて担当させてもらいましたが、若手社員のお手本となるものでしたので、きちんと設計するのは大変でした。

戸田 社内合意を得て、設計図に反映される業務も一苦労だったと思います。大多和君には、企画設計から監理業務まで一貫して主体的に担当していました。特にこの建物のメインとなる研修室について、時間をかけて様々な検討を行つてもらいました。意匠設計と協力し、数多くの温熱・風環

境シミュレーションを実施し、自然換気を促進させる建築形状の検討を行つた。また空調システムの評価には、熱中症発生リスク評価指標であるWBGT (Wet Bulb Globe Temperature) を用いるという新規的な取り組みを行い、今回の研修室といふ使用目的に対して最適な空調システムを提案した。

坂口 はじめは小前さんと一緒に、大橋さんとの打合せに参加していましたが、どうやら徐々に私だけで大橋さんと打合せるようになりました。自分で検討すると出来ないことも、小前さんに相談するとなります。やはりプロだなと思いました。



テリトリー意識なく、大勢でつくりあげる「みんなの家」

担当として

西村 私は基本設計から、主担当としてこのプロジェクトに関わりました。そこで様々な人と付き合えたのが、とても大きな経験でしたね。私は以前は設計事務所に勤務し、それから清水建設に入社した中途採用ですが、お客様はじめ設計・技術研究所・現場の人たち、メーカーの方たち、多くの人と関わるのはシミズならではの体験ですね。また、多くの人が携わる案件は、軸が無いとぶれてしまいがちです。しかし街を引き込むといった目標がしっかりありましたので、技術的なことも他部署と協力しあって一歩ずつ前進していました。たくさんの人とともに建築をつくりあげる達成感はすぐにつきました。おかげでお客さんにも喜んでもらえて本当に嬉しかった。

シミズで設計する意義とは

今井 糀谷さん、西村さん、井筒さんとに伺いたいのですが、建築の設計やインテリアの設計について他にも様々な組織があると思いますが、シミズならでは、シミズで設計する意義は何だと思いますか?。

糀谷 設計コンセプトの実現を上流段階から、施工や技術スタッフを含み、プロジェクト関係者がイメージを共有し、ものづくりを進められるところですね。一種の運命共同体のよくな関係は面白味ですね。

西村 やはり、いろいろな人たちとつきあえることですかね。

井筒 いろんなことに得意な人がいる、よりよい方向になりますよね。日本人的なのかもしれません。テリトリー意識無く行くように私は感じていますし、そこがとても良いのではないかと思います。



地下街から望む



森に入り神木選定



丸太の選定

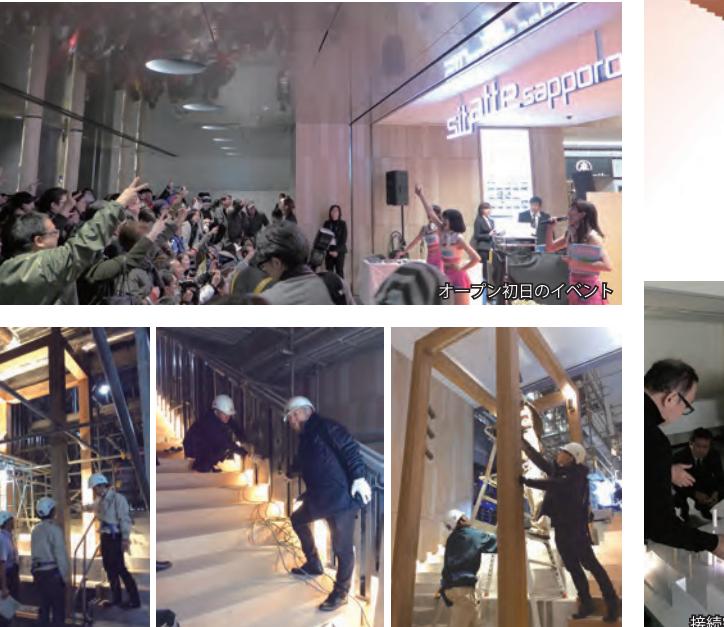


丸太の選定

糀谷 設計コンセプトの実現を上流段階から、施工や技術スタッフを含み、プロジェクト関係者がイメージを共有し、ものづくりを進められるところですね。一種の運命共同体のよくな関係は面白味ですね。

西村 やはり、いろいろな人たちとつきあえることですかね。

井筒 いろんなことに得意な人がいる、よりよい方向になりますよね。日本人的なのかもしれません。テリトリー意識無く行くように私は感じていますし、そこがとても良いのではないかと思います。



オープン初日のイベント

12
vol.77

光のイメージスケッチ

13
vol.77

ライティングスタディ風景

13
vol.77

アウトドアのトップブランドであるお客様の「デザイン思想を形に

— 施主の思いを建築に注ぎ込む —



**snow peak Operation Core HQ2
スノーピーク オペレーションコア HQ2
新築工事**

野田 正太郎
矢野 光一郎
宮村 泰至
北村 信之

意匠設計 2014年入社
構造設計 2009年入社
設備設計 2009年入社
製造設計 2005年入社



キャンプサイト内にある本社



模型による空間検証
3Dシミュレーション検証
製品クオリティへのこだわり



模型による空間検証
3Dシミュレーション検証
製品クオリティへのこだわり



模型による空間検証
3Dシミュレーション検証
製品クオリティへのこだわり

スノーピークの企業理念

The Snow Peak Way

私達スノーピークは、一人一人の個性が最も重要であると自覚し、同じ目標を共有する眞の信頼で力を合わせ、自然指向のライフスタイルを提案し実現するリーディングカンパニーをつくり上げよう。

私達は、常に変化し、革新を起こし、時代の流れを変えていきます。

私達は自らもユーザーであるという立場で考え、お互いが感動できるモノやサービスを提供します。

私達は、私達に関わる全てのモノに良い影響を与えます。

3D等のデジタル技術と アナログな作業の融合

360°空間を確認できる3Dパノラマソフト「Visit360」を活用。食堂では光の入り方・全開放できる開口からの眺めを、ビジターホールではトツライトからの光の入り方・左右の製造室とアフターサービス室の見え方を検討しました。

それと同時に、ものづくりとして必要なアナログな検討作業も同時に進めました。模型やスケッチによる形態の検討や空間の特徴づけなど、手仕事の積み重ねで生まれる部分もスノーピーク製品のシンプルで研ぎ澄まされた感覚を、建築においても実現することを目指し若手設計者を中心にして取り組みました。



次なる百年への想い
—歴史との対話により、まちの価値を守り、つくる—

今まで経験したことのない 歴史建築との対峙

富山県高岡市中心部、国から「重要な建造物群保存地区」に指定された山町筋（やまちょうすじ）と呼ばれる通りに位置する、信用金庫本店の建替えプロジェクトです。

入社以来、現代建築に取り組んできた私たちにとって、これまでの経験だけでは到底立ち向かえない場面の連続でした。日々遭遇する「どう作るか分からない！」という焦りを、歴史建築の特有のスケール、納まりを一つ一つ検証し、丁寧に進めていきました。

山町筋には、現在も使われ続けている、清水組の田辺淳吉技師による約百年前の設計施工作品（県指定近代歴史遺産）があり、他ではない独特な街並みを創り出しています。

今回この場所で、街の歴史、さらには、当社の歴史とも向き合う覚悟を持つて取り組みました。

建て替えに当たっては「切妻平入で町屋形式」という、行政の形態指針に従う必要がありました。しかし、古写真・文献の調査を行うなかで、かつて、この地域独自の街並みが存在していました。実際、周囲と連続しない独立屋根の土蔵銀行建築が、切妻平入の町屋形式の中に点在することで形成される特異な景観です。

敷地形状から割り出したボリュームの大きさを考慮し、全国の土蔵銀行建築へとりサーチの幅を広げました。この場所に、他はない建築を生み出す必要性があることが、歴史検証から明らかになりました。

外壁の黒本漆喰は、暴露試験を当初から行い、経年変化の状態を現業と把握しました。冬期の左官工事のため、24時間徹底した温度管理を行うことで、皆で追い求めた、どこまでも深く黒い肌理を得ることが出来ました。

アルミ鋳物による開口部のグリルと観音開扉、塩焼釉薬煉瓦を再生させた特注タイル壁の表情など、素材同士が共鳴し、現代技術と伝統的技術・素材が融合した、唯一無二の表現を生み出すことが出来たと考えていきます。

現代の技術と 伝統的技術を融合させる

高岡市は、工芸を背景とした金属加工技術が盛んであり、伝統的な工法・素材から新たなものづくりを行う土壤があります。歴史ある素材や技術を積極的に採用し、現代技術と融合させることを、工事長の建築への愛情に支えられながら実現させました。

外壁の黒本漆喰は、暴露試験を当初から行い、経年変化の状態を現業と把握しました。冬期の左官工事のため、24時間徹底した温度管理を行うことで、皆で追い求めた、どこまでも深く黒い肌理を得ることが出来ました。

アルミ鋳物による開口部のグリルと観音開扉、塩焼釉薬煉瓦を再生させた特注タイル壁の表情など、素材同士が共鳴し、現代技術と伝統的技術・素材が融合した、唯一無二の表現を生み出すことが出来たと考えていきます。

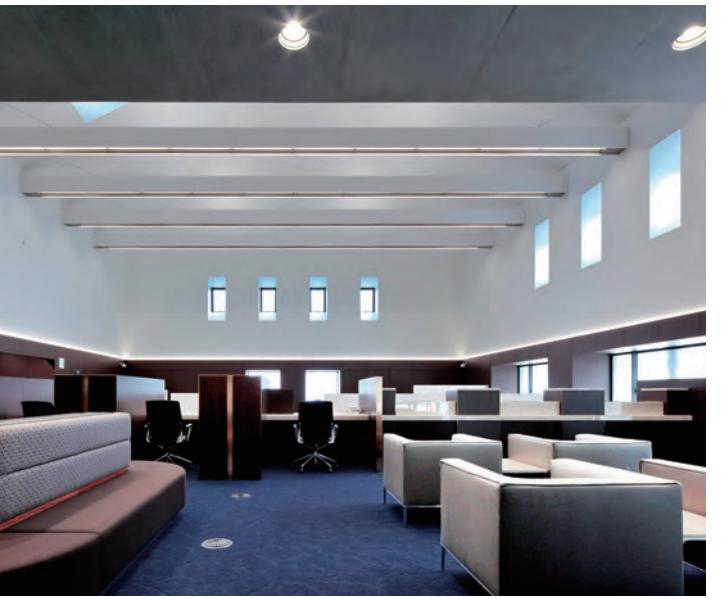
百年前の清水組の仕事と 軒を並べる覚悟

高岡信用金庫本店（1944-1961）

高岡信用金庫本店
当時の街並み



左官工事の技術の伝承風景



Head Office of
Takaoka Shinkin Bank
高岡信用金庫本店

学生の「プラットホーム」となる建築を目指して —ハーバリックパーキングホールを造る—



Ryutsu Keizai University
Ryugasaki Building 2
流通経済大学
龍ヶ崎キャンパス 2号館

垣中 智博 意匠設計 2015年入社

流通経済大学龍ヶ崎キャンパス2号館は私が入社して初めて担当し、企画設計の案出しの構想段階から竣工まで携わることが出来たプロジェクトです。自分の考えていた空間を実際にどうやって構成していくかを上司や他の人々と議論をしながら1つの建築をつくり上げていくことが出来ました。



50周年のシンボル

本計画は流通経済大学50周年事業による龍ヶ崎キャンパス新校舎建設工事でした。開校から50年が経過し特に近年は学習方法や生活スタイルにも大きな変化が訪れていました。



そこで本計画は、キャンバスの中心となる「象徴性」を持ち、わかりやすく、溜まりやすく、使いやすいという条件を満たしつつ、学習の場として学生の居場所となる新しい「プラットホーム」をつくることが重要だと考えられました。



学生の「プラットホーム」をつくる

複数案の模型を作成し、「象徴性」と学生の「プラットホーム」生み出すためにはどの案が適切なのかを上司と議論し案を絞っていました。その過程で敷地のボンタンシャルを最大限に活かし、すべての機能が一枚の大屋根の下に集まり、一的に繋がっている案が採用されました。



そこから大きな模型やBIMによって内部空間や、外観の検証を行ってきました。現場が始まってからは各所で大屋根の下で「コミュニティプラザ」「講義棟」「既存図書館」が連続的に繋がり、開放的でシンボリックな「コミュニティプラザ」を創出することができました。

実際に竣工を迎えた建物には、一枚の大屋根の下で「コミュニティプラザ」「講義棟」「既存図書館」が連続的に繋がり、開放的でシンボリックな「コミュニティプラザ」を創出することができました。



これから50年を支える

「ミコニティプラザ」の中心には、「これまで」と「これから」の50年の歴史を刻み続ける「メモリアルウォール」を設置しています。本計画の肝となる部分で、施主側からも期待を頂いており、デザイン検討には力が入りました。施主から要望があるたびにF4と共に案を作成し、プラッシュアップさせていきました。最終的には、歴史の積み重なりを表現した凹凸がある壁面に各年代の出来事を記載する壁面に各年代の出来事を記載する壁面に各年代の出来事を記載する壁面になりました。



今回のプロジェクトでは入社一年目から担当者として企画から竣工を迎えるまで関わることが出来ました。このプロジェクトを通して提案から実現までのプロセス、想像していた空間のイメージを実現していく難しさ、やりがいを身をもって体験することが出来ました。

今回の建物がキャンパス内での学生の交流の場となり、これから50年とともに作り上げていく場となっていくことを願っています。



建築が実現する喜び

今回のプロジェクトでは入社一年目から担当者として企画から竣工を迎えるまで関わることが出来ました。このプロジェクトを通して提案から実現までのプロセス、想像していた空間のイメージを実現していく難しさ、やりがいを身をもって体験することが出来ました。

今回の建物がキャンパス内での学生の交流の場となり、これから50年とともに作り上げていく場となっていくことを願っています。

みなとみらいに建つオンラインオフィスのつくりこみ

— 都市的スケールからディテールまでスタディを重ねてつくつこむ —

YOKOHAMA NOMURA BUILDING

KEN MATSUSHIMA / TAKAYUKI ISHITANI / SUMIO KUMAGAI



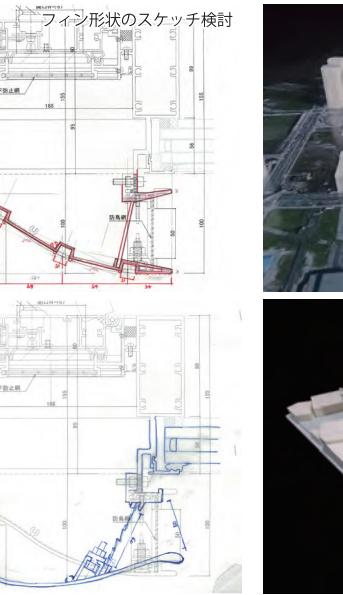
YOKOHAMA NOMURA BUILDING
横浜野村ビル



松島 研
石谷 貴行
意匠設計 1996年入社
意匠設計 1998年入社



模型による配置検討



フィン形状のスケッチ検討
模型による配置検討



ファサードのモックアップ検討
ファサードのつくりこみ



3Dモデルによる外構検討
3Dモデルによる外構検討



低層部模型
3Dモデルによる外構検討



エントランスホール
外構



エントランスホール
外構

みんなとみらいの オンラインオフィス

様々なスケールで地道で細かな検討作業を繰り返しながらできたこの建築は、大規模ながらも、どこをとっても設計者の思いがこもったオンラインオフィスになつたと感じています。

建築を取り巻く外構もオフィスで働く人にとって重要な空間と考え、フォレストパークと名付けました。模型や3Dモデルによつて家具や植栽の配置、素材の検討を繰り返し行うこと、人と建物と植栽が一体となつた空間を目指しました。

エントランスホールやエレベーターホールは外部とつながる開放的な空間にするため、床や壁の石、金属パネルの反射しかた、ディテール、寸法などを模型、モックアップによる検証を繰り返しながら決めていきました。独立店舗棟の外装とエレベーターホールの壁はアルミ光輝合金という材料を使い、光を柔らかく反射しつつ、まわりの風景を映しこむ素材を採用し、人と建物と植栽が一体となつた空間を目指しました。

敷地が大きく建物も大規模であるため、高層部の威圧感を与えないよう、繊細で端正なファサードを目指しました。海面のざわ波をイメージした波型のファサードは、軽快で適度な凹凸のある表情を生み出します。換気機構を持つファインの形状は模型による見え方のスタイルとともに、風向きによるシミュレーション、風洞実験、3Dプリンターによる断面検討で、「デザイン」と機能の最適解を見つけていきました。

都市レベルでの配置スタディ
みなとみらいという場所に建つという意味を考えながら、多様なオフィスワーカーのニーズに対応可能なオンラインオフィスビルになるようとの思いで設計に臨みました。
計画地は、みなとみらい地区の南、ランドマークタワー側からの軸線と北の横浜駅側からの軸線が切り替わる街区にあります。建物の軸線をみなとみらい全体における計画の位置づけから都市的スケールの模型、街区スケールの模型により建物配置、ボリュームの検討を行い、施主を含めた関係者でディスカッションしながら都市軸との関係、空地の取り方、オフィスの配置、最大ボリューム確保を考慮して現在の配置に決めていきました。

空間・ディテールの つくりこみ

つくりこみ



エントランスホール
外構

南国宮崎の地域性を取り込んだ建築デザイン

二の場所はひどい難題を出題して

「南国宮崎の地域性を取り込み、街のシンボルとなる建築に！」

に位置するシティホテルとして、画一的な單窓のホテルとして計画するのではなく、「南国宮崎の地域性を取り込んだ個性的で街のシンボルとなる建築を目指そう！」このコンセプトをチーク内で共有し、皆で作品作りに打ち込

■ 客先の笑顔を頂けた喜び

水からの提案に期待したい」という依頼で進んでおり、期待を超える提案を求められていた為、コンセプトとそれに伴う内外装デザインは十分に創りこんでから寄先に提案を行いました。テ

に共有する事で「完成がとても楽し
み！」と客先の笑顔を頂けたときには
皆で汗をかいたことが本当に誇らしく
思える瞬間でした。

この場所ならではのデザイン

強い日差しで生まれるリズミカルな陰影を纏う深みのあるファーサードなどに表れています。また、デザイン上の特徴となっている開口計画は宮崎の伝統工芸品である竹細工をモチーフとしており、縦長窓と横長窓の2種類を千鳥

『編
む』『ディテールとして計画しました。』
『編
む』『ディテールとして計画しました。』

くることは、意匠性、地域性、施工性、経済性を同時に考慮したデザインとすることができたと感じています。

コンセプトを深める ための詳細検討

いう構造的な制約を外装の意匠により深みを与える制約と捉え、意匠担当と構造担当で協議を繰返し、より『編む』リズムを強調できる目地の配置や深さを検討し、目地デザインの一部に取り込みました。「たがが目地…され

慢の建築となりました。者からだわりポイントとして語れる街のシンボルとしてこれららの地域性を取り込んだこの場所

客、また街の方々に心地良い建築として街のシンボルとなり長く地域に愛される建築となることを関係者一同で願っています。



KIYOKAZU KOGA / SHUNSUKE AOKI / MAYA ITOKAWA

KIYOKAZU KOGA / S

KYO KAZU

じぎくちのよい「働く場」をつくりたい
—EDUCATIONAL DESIGN FOR WORKING PLACES

—北海道の寒さに負けない、快適で開かれたオフィスをつくる—



建太 構造設計 2009年入社

RINNAI CORPORATION
HOKKAIDO BRANCH
リンナイ北海道支店

る開放的な執務スペースとし

以上の構成を踏まえた上で、今回の計画では、シンプルな白い床に様々な人が集まつてくるオフィイスというものが

を考へました。



境内に6台分確保しました。内部空間は、「外光を取り入れた明るい空間」、「天井高さにゆとりのある、圧迫感のない空間」との施設主要望を実現すべく、ガラスカーテンウォールによる開放的な執務スペースとしました。

以上の構成を踏まえた上で、今回の計画では、シンプルな白い床に様々な人が集まつてくるオフィスというものを考えました。



寒冷地においてガラスカー・テン・ウォールによる開放的な空間を実現するため、
「働く場」をつくる
居心地のよい



効率的な暖房とし、断熱によって、冬も暖かく快適なオフィスとしています。主要諸室には床暖房による居住暖房をとり入れ、大きなガラス面を持つ建物外周部では空気の循環する仕組みをつくることで室内への寒気の流入と結露の発生を防いでいます。

また、建物中央の吹抜けを利用して中間期の自然通風を確保し、夏場の冷房消費エネルギーを削減しています。

快適に過ごせる建物であると同時に省エネ技術に取り組む会社の社屋にふさわしい、省エネな建物であることを目指しました。

建物まるごとショールーム

新社屋がまちに対し、ブランドイメージの新たな発信拠点となることを意識しました。大きなガラスと「コンクリートの壁面が交互に繰り返すファ



建物自体がまちの大きな照明

ではなくオフィス内での暮らしもそのものをライフスタイルとして発信する「建物まるごとショールーム」となることを目指しました。

外周部の傾斜天井は面全体が光源となるよう計画しています。この光が建物内部を照らすとともに、外構を照らし出すことで、建物全体が街にとっての大きな照明として機能します。

コンペから竣工まで

この案件に関わった経験

コンペから竣工までこのプロジェクトに関わり、図面や素材、打合せの仕方等を学びました。わからないことは、自分が他の人に説明できるようになるまで聞くことがとても大切だと学びました。必死で取り組んだ結果、施主に喜んでいただけの建物ができると

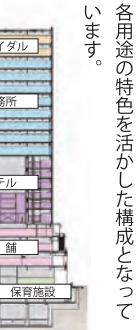
さいたま新都心駅前に広がる「広場の空間」

卷之三



JR SAITAMA-SHINTOSHIN

JR SAITAMA-SHINTOSHIN
BUILDING
JR さいたま新都心ビル



多彩なチームでの
「モノづくり」



二〇



ビー垂木



**街や人の生活に溶け込む
「にぎわいの施設」**



駅前から見たJRさいたま新都心ビル



さいたま意匠設計チーム 野村・安田・富田・中野

空間が崩れ、来場者が寂しそうに過ごしている様子を見ると、「広場の空間」というコンセプトが息づいているなど感じます。スタートから完成まで多くの人が関わり、たくさんの人の想いがつまつた建物になつたと思いま

で多くの人が関わり、たくさんの人の想いがつまつた建物になつたと思いま

建物になつたと思いま

A portrait of a young woman with dark hair, smiling at the camera. She is wearing a dark blue top and is seated at a desk in an office environment. Behind her are shelves filled with papers and office supplies.

A photograph of a modern, multi-story building with a light-colored facade and large windows. The entrance features a glass door and a small sign. The text "駅前か" is overlaid at the bottom right.

バンコクの目抜き通りに足跡を残す

—イメージを伝えるためのとりくみ—



熊谷 清水建設の設計で最高高となる266mのビルを2年間担当し、設計・施工契約を取得、今年5月着工に至りました。日本では経験できない超高層ビルの設計ノウハウを蓄積しています。英語を駆使し超高層ビルの経験豊富な世界中のコンサルをリードし、海外でも十分にやっていける自信がつきました。

きなやりがいを感じています。海外にはこのような目玉案件を自分でリードしていくチャンスが転がっています。

Kumagai : I am in charge of this 266m super high-rise building which is by far the highest building designed by Shimizu Corporation. We received the design & build contract this May. I accumulated this super high-rise building know-how which is difficult to experience in Japan. I have the confidence to design super high-rise buildings internationally by leading well-experienced consultants all over the world through the use of English.

Such height & complicated shape is still rare in Japan while maintaining high quality. But I feel that it is greatly worth it every day. There are many opportunities overseas to lead such big project as I am involved in.

Koyama: I moved to this project half year ago. While design method which is different from Japan, I enjoy designing with my seniors and local staff. Jakarta is a motorized society. I aim to design the prototype of super high-rise buildings which is to contribute to enrich people from the car window going through jakarta.

インター・ナショナルグレード超高層ビルへの挑戦

THE JAKARTA OFFICE TOWER PROJECT(tentative name)

SUMIO KUMAGAI / KOUSUKE TSUTAGAWA / ATSUKO KOYAMA



土山 忍 今回の計画は、バンコクで一番の繁華街に駅直結ホテルを建てるということで、設計当初からワクワクしました。

シャヤニン ホテルプロジェクトということで、タイのインテリア、ランドスケープ、照明、ファサード、音響などのコンサルとコラボできたのは、貴重な経験になりました。

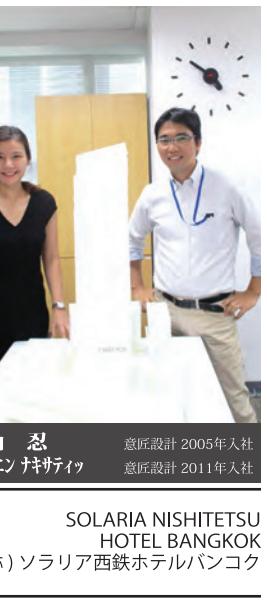
土山 クライアントと一緒に時間をかけたのは、限られたスペースの中で、いかにコンパクトで快適な客室をつくることでした。バンコク内の類似規模ホテルを調査したり広がりのあ

る空間とするため、バスルームやワードローブのオープンコンセプトをモックアップにて確認できました。

Tsuchiyama: This project was exciting from the beginning of design as building a Directly connected hotel to the station in Bangkok's busiest town.

Shyanin: It was a valuable experience that we collaborated with various consultants such as Thai interior, landscape, lighting, facade, acoustic etc. as a hotel project.

Tsuchiyama: Anyway, we can see the fact that what we designed for the main street of Bangkok is building more and more is great pleasure as designer.



SOLARIA NISHITETSU HOTEL BANGKOK
(仮称)ソラリア西鉄ホテルバンコク

and In order to make it expane space, we could confirm the open concept of bathroom and wardrobe by mock-up.

Shyanin: It was efficient to create a mock-up after changing the color schemes of mock-up and images of executive guest room with VR goggles and checking them with virtual reality.

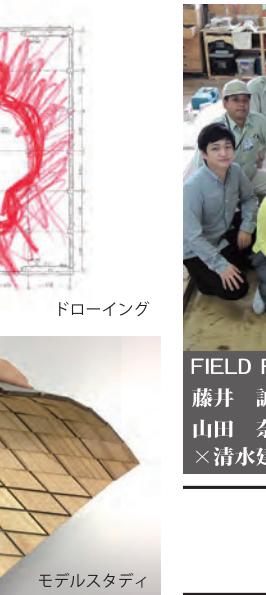
Tsuchiyama: The longest time to spend with clients was to create compact and comfortable rooms in a limited space. We researched similar size hotels in Bangkok,

続・完成した後にお互いドヤ顔したい

—「ツッパグ」「アーチョンウォール—



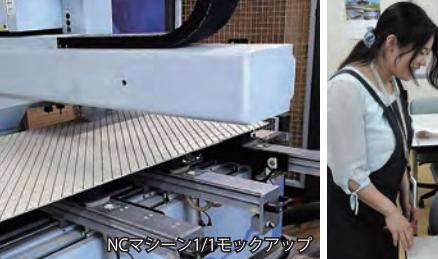
FIELD FOUR DESIGN OFFICE
藤井 誠
山田 奈津子
×清水建設東京木工場



ドローイング



モデルスタディ



NCマシーン1/1モックアップ



全員集合!

チャレンジ

今回は、貸会議室のラウンジ部分において木工場とのコラボレーションを行いました。パブリックエリアとなるラウンジは施設を印象付ける重要な部分となっており、インフォーマルなコミュニケーションを促したり、リフレッシュのための機能が求められます。そこで会議室内と対照的な自然をイメージした有機的なプランニングを考え、包み込まれるようなラウンジを提案しました。目地の間隔に粗密を付けることで、R壁に追従する機能と視覚的効果を強調させる事を意図し、いくつものサンプルを見て曲がり具合と視覚性とのバランスを検討しながら試行錯誤を繰り返し、温もりと柔らかさのあるワッドウォールが出来ました。

エキサイティング

今回のプロジェクトもそうですが、同じ施工、そしてコラボレーターである木工場とのコラボレーションをやっていると、ハードルはどんどん高くなっています。想像の域を何処かで裏切らないといけないので、視点を変えたり、何かを組み合わせたり、切れ味鋭い発想と明快な回答（コンセプト）が無ければそのハードルは超えられません。思いもよらない使い方や着眼点で攻めなければ木工場の匠はなかなか興奮してくれません。いつも求められているんだな、私はそう捉えております。今では完成した後に最後はお互いドヤ顔で語り合うのが恒例になりました。

コンテイニー

竣工してプロジェクトが完了しても、その過程で話したアイディアや素材、ディテール等はまた次の何かのプロジェクトで再び繋がることがあります。このプロジェクトがオープンして、その3か月後に新たにオープンする次の店舗を今までに進めていた最中であり、木工場との次のコラボレーションが行われております。またお互い興奮するようなものづくりを目指してこの冊子に掲載されるよう頑張っておられます。

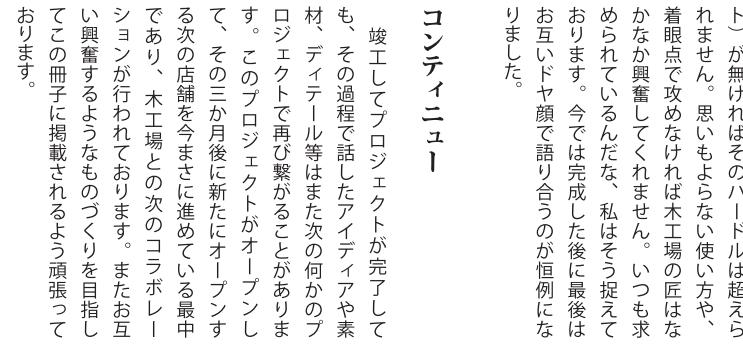
オリジナリティ

このプロジェクトは、会議室を時間単位で貸すいわゆる貸会議室です。「貸会議室」と言っても、用途や大きさ、使われ方は多様で、会議はもちろん、講義、研修、試験会場、宴会、パーティ会場など、様々な使われ方を想定したり、施工や使用されるお客様が創造力を掻き立てる空間を作る必要があります。このフクラシアもお客様に快適かつオリジナリティのある空間を提供できるかを基本概念としております。お施主さんが貸会議室の運営を始めた当初から仕事を頂いており、互いに率直な意見を交わせる良好な関係性を築く事が出来ております。今回で5店舗目となりますが、毎回求められる要求は高くなり、明快でクリエイティブな空間が必要とされます。

今回のプロジェクトでコラボレーションをした清水建設 東京木工場は、明治17年の開設以来、およそ130年に渡り木工技術を伝承してきました。職人集団の会社です。今回のフクラシア案件ではほぼ全案件でコラボレーションしており、プロジェクトの中で勝負どころには木工場という一つの流れがあると言つても過言ではありません。まだ案も通つてない早い段階から、イメージモックアップを製作してもらいました。まだ案にお見せすることで、木の質感をリアルに感じてもらいたいながら具体的なイメージを持って頂くことができます。そこで会議室内と同時に何で作るかイメージに適した木材を探して頂き、作り込みと検討を重ねてていきます。

リアリティ

ショーンをした清水建設 東京木工場は、時代が要求する様々な需要に応えるために、常に技術革新を続けてきました。施主集団の会社です。今回のフクラシア案件ではほぼ全案件でコラボレーションしており、プロジェクトの中で勝負どころには木工場といふ一つの流れがあると言つても過言ではありません。まだ案も通つてない早い段階から、イメージモックアップを製作してもらいました。まだ案にお見せすることで、木の質感をリアルに感じてもらいたいながら具体的なイメージを持って頂くことができます。そこで会議室内と同時に何で作るかイメージに適した木材を探して頂き、作り込みと検討を重ねてていきます。



コンテイニー

竣工してプロジェクトが完了しても、

その過程で話したアイディアや素

材、ディテール等はまた次の何かのプロ

ジェクトで再び繋がることがあります。このプロジェクトがオープンして、その3か月後に新たにオープンする次の店舗を今までに進めていた最中であり、木工場との次のコラボレ

ーションが行われております。またお互

い興奮するようなものづくりを目指してこの冊子に掲載されるよう頑張っておられます。

『母になる』を見守る

「母はなる」「家族はなる」を含む空間「くいの葉しさ」に直面して



美紗子	意匠設計	2010年入社
佑介	意匠設計	2013年入社

AIKU LADIES CLINIC
愛育レディースクリニック

福地 これから母になる一人一人を大切に見守り、利用者とその家族に愛されるクリニックを目指したい。というクライアントの理念を実現するため、産婦人科の移転・新築プロジェクトに取り掛かったのは、入社二年目でした。

The image is a collage of architectural sketches and drawings. At the top left is a detailed sketch of a large tree with pink blossoms. To its right is a sketch of a building facade with labels: 'SABINA' above a window, 'SAMBIA' below it, and 'magnolia' near the base. Below these are two more architectural drawings: one showing a cross-section of a building with a red outline and green highlights, and another showing a multi-story building with a green roof and yellow accents. At the bottom left is a sketch of an open-air space with a railing and trees. To the right of that is a sketch of a curved building facade with a green roof and yellow accents. The entire collage is composed of hand-drawn sketches.

パスを繰返し作成しまし

家族のための

七
家
族

**母子と家族のための
緑と光に包まれた空間**

桜並木をのぞむ待合空間は、全面ガラス貼りとして窓際に腰掛けられるマタニティベンチを設けました。冬場の窓際の冷気を考慮し、ベンチに薄型の床暖房設備を設けるなど、妊娠さんに優しい施設とすることを心掛けました。

A candid photograph of two people, a man and a woman, laughing together in an office environment. The man, on the right, is wearing a black t-shirt and a white watch, and is holding a small white object. The woman, on the left, is wearing a light-colored blouse. They are both looking down at a table covered with papers and documents. In the background, there are office shelves filled with books and files, and computer monitors on desks. The lighting is bright, coming from overhead fluorescent lights.

の様子が垣間見れ、安心で

桜をのぞむ位置にさくらテラスを配置し、そこを取り囲むようにラウンジやマタニティホールを設けました。母になる心と身体の準備を行う空間として、それぞれの室は緑を享受でき、自然光がたっぷり注がれる空間づくりに



このクリニックでは、母児同室を基本とします。全室個室とし、母子の時

思い切つて提案してみる

クライアントのインテリアへのこだわりに応えるべく、思い切った提案にいくつも挑戦しました。ガラスタイルの受付、花柄をメインにあしらった外来診察室、真っ赤な階段、薔薇柄の病室、ヴァイオレットトレイ…。利用者にブチラグジュアリーを感じてもらうためのアイディアをどんどん出していきました。

利用者の実感と行動

お披露目会当団、たくさんの利用者、その家族、地域の方々がいらっしゃいました。「わー、ここで産めたらいいね」お腹の大きなお母さんの一言は、常にエンジニアの立場を理解した設計者でいることの重要性を、改めて教えてくれました。



お披露目会当日、たくさんの利用者、その家族、地域の方々がいらっしゃいました。「わー、ここで産めたらいいね」お腹の大きなお母さんの一言は、常にエンジニアーザーの立場を理解した設計者でいることの重要性を、改めて教えてくれました。

「BCPと歴史の継承」を「技術」で両立した漆喰天井

—最新技術を用いた歴史的建造物の耐震改修—

受け継ぐ先人の思い。

歴史の美学。

本プロジェクトは、歴史的建造物となっているホテルニューグランド本館の耐震改修工事です。

2010年に、「将来も当ホテルが横浜のリーディングホテルとして永続的に事業を継続できるよう、ホテルを利用するお客様と従業員の安全確保のため建物の耐震化を行ってほしい。その際には、歴史的建物の価値も残してほしい。」という依頼を受けました。

まずは不足箇面を補うために4年かけて調査を行い、構造図面を復元しました。

本館2階には、竣工当時の姿をそのまま残し歴史的保存部位に指定された漆喰天井の宴会場及びロビー、木造格天井の宴会場があります。プロジェクト期間中の2011年に発生した東日本大震災は、これらの重量がある天井の耐震化の必要性を再認識させられたものでした。今回は、本改修工事のうち、さまざまな技術的検討を行い、国内初の漆喰天井の耐震対策を適用したレインボーボールルームの改修について紹介します。

残すことは難しい

計画を進めるにあたって大きな課題となつたのは、83年間の度重なる改修と戦争による混乱のため図面が部分的にしか残っていないこと、歴史的価値のある内装と外観を変えずに耐震補強をどのように行うかでした。

まずは不足箇面を補うために4年かけて調査を行い、構造図面を復元しました。

本館2階には、竣工当時の姿をそのまま残し歴史的保存部位に指定された漆喰天井の宴会場及びロビー、木造格天井の宴会場があります。プロジェクト期間中の2011年に発生した東日本大震災は、これらの重量がある天井の耐震化の必要性を再認識させられたものでした。今回は、本改修工事のうち、さまざまな技術的検討を行い、国内初の漆喰天井の耐震対策を適用したレインボーボールルームの改修について紹介します。

クライアントの熱い思い

このような困難な状況に対し、私が粘り強くチャレンジできたのは「作り直す方が安く簡単であるが、それはできない。なぜなら、この建物は歴史を受け継いだ、市民の財産でもあるのだから」というお客様の熱い思いがあつたからです。

漆喰天井の耐震補強は、今までに事例が無かつたため、既存調査・補強計画→試作→実証実験→検証のルーチンを何度も繰り返し確認し、施工に適用しました。これにより、伝統ある空間の質と内観を変えずに、主たる部材を活かしつつ当時の工法も継承しながら耐震性能を確保する補強を行いました。調査と改修工事は、点群測量とBIMを有効活用し、最新のICT施工で実施しています。

苦しさのなかにある楽しさ

既存建物に関するさまざまな制約条項の中で目標を満足させる改修工事は、建物の現況及び要求性能を達成する技術をどのように整合させるかがとても重要となります。時には深夜におよぶ調査で90年前の現物を目で見て手に触り解決策を考えるという体験は、技術者として楽しさを感じるほど有意義な経験でした。

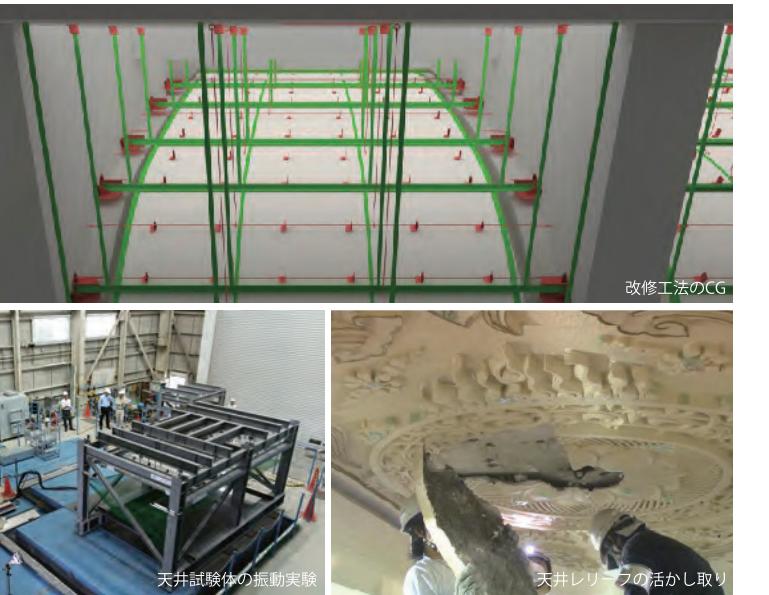
50年100年後も残る建物

お客様の「クラシックホテル文化の歴史と伝統を継承し、今後も永続的に事業を継続する」という意志に応え、当社の技術を駆使することによって、本館の内外観・建築材料・工法を変えることなく、耐震性とホテル機能の向上を実現することができます。

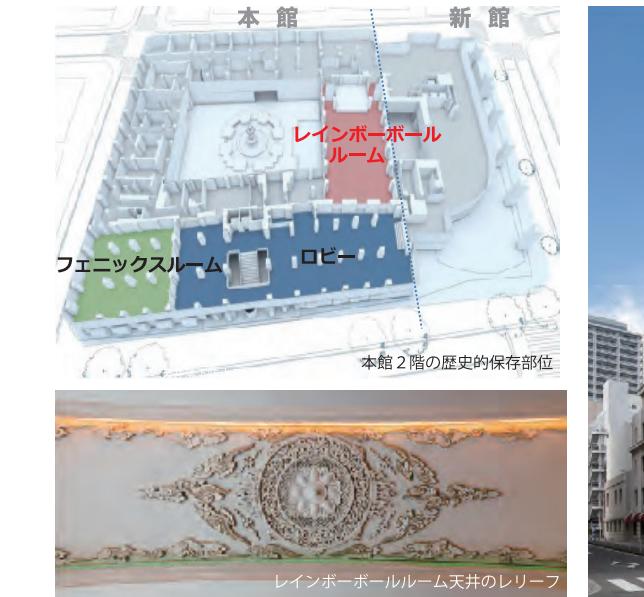
この成果は、営業・設計・技研・技術スタッフ・現業各部署の緊密な連携の賜物です。担当された皆様と暑い期間に作業頂いた協力会社の皆様に心から感謝を申し上げます。



改修後のレインボーボールルーム



改修法のCG
天井試験体の振動実験
天井リリーフの活かし取り



レインボーボールルーム
フェニックスルーム
ロビー
本館2階の歴史的保存部位
外観



松原 正芳 構造設計 1986年入社
加藤 栄一郎 意匠設計 1992年入社



HOTEL NEW GRAND RENEWAL PROJECT OF MAIN BUILDING
ホテルニューグランド
本館改修工事



改修プロジェクトに関わったメンバー

“未来を見つめる窓”と“三つの塔”

—三田の丘に築かれた白壁の積み木—



小坪 忠彦
芦田 裕二
佐伯 先史

意匠設計 1982年入社
意匠設計 1993年入社
意匠設計 1989年入社

SAWAI PHARMACEUTICAL
SANDA WEST FACTORY
沢井製薬 三田西工場

兵庫県の山々新三田（しんさん）だ。駅からほど近い工業団地内に完成した、ジエネリック医薬品の包装工場です。医薬品は自身をつくるだけではなく、包装して初めて世の中に出て、患者さんの手元に届きます。今後も予想されるジエネリック医薬品の需要拡大に備え、近接する既存工場の錠剤の増産体制と連携して、包装能力の増強を目的とした工場です。



その外観を特徴付ける要素となっているのが、東面に大きく開かれた“未来を見つめる窓”です。室内としては食堂や見学通路の一部としての機能を持つと共に、企業の今後の更なる発展をイメージさせる存在となっています。さらに、工場としての重要な内部機能の一つである物流を担う『自動立体倉庫』が“三つの塔”として出現しています。



“未来を見つめる窓”と“三つの塔”

敷地は工業団地内の幹線道路に隣接する公園や池を借景として俯瞰しています。道路から50mほどせり上がった法面上に建つその外観はまるで“積み木”を組み合わせたような外観を呈しています。



魅せる工場

客先との打合せの中で生まれたのが“魅せる”工場というコンセプトです。工場に訪れた方々に清潔で明るく高機能な工場を“魅せる”ことによって、客先やジエネリック医薬品への信頼性を高めることができます。

『自動立体倉庫』は奥行き50m、高さ30mで約4100個のパレットを収納できます。LEDライトが設置されたスタッフカークレーンが荷物の出し入れを行う様子を見せる為、客先との協議を重ね、壁を大判のガラスに変更しました。

東に向く大きなガラス開口部は、4階では従業員用の食堂となつており、六甲の山々も見渡せる眺望も得られ、従業員の方々のくつろぎの場所として好評です。

コンペ時のプランからの変更

客先との設計打合せを進める中で、医薬品製造工場としての最適化を図りながら、そこで働く従業員に対する安全性や快適性への配慮についても議論を重ねてきました。駐車場までの安全な通路の確保、従業員の更衣動線の短縮、中央実験室を中心にしてそれを取り巻く実験諸室の配置、更に外観デザインの変更を行いました。法規やコストなどの条件で一般的には変更が難しい中で、勇気を持って取り組むことで施主から満足いただける建物が実現できました。



新しいまちをつくる

— 敷地のポテンシャルを活かした集合住宅群の実現 —

各分野の専門性を融合させた 配棟計画

本プロジェクトは福岡市有数の高級住宅地を再開発する、約10年に及ぶまちづくり計画。コノペ入手後、配棟計画の全面的な見直しからプロジェクトは始まりました。

事業者は、デベロッパーとして、また住宅メーカーとしてのプロ、私たちは集合住宅設計の専門集団、F4はインテリアとランドスケープの専門家。それぞれの知恵を出し合いながら、敷地のポテンシャルを最大限に活かす配棟計画を目指しました。

事業者は、デベロッパーとして、また住宅メーカーとしてのプロ、私たちは集合住宅設計の専門集団、F4はインテリアとランドスケープの専門家。それぞれの知恵を出し合いながら、敷地のポテンシャルを最大限に活かす配棟計画を目指しました。

新しい商品企画を福岡に実現したいという事業者の思いを具現化するための配棟計画を考えました。敷地に沿った片廊下式の住棟配置とするのではなく、建物を道路から後退、高層化することで周辺への圧迫感と見合いを軽減し、沿道景観への配慮も行った中廊下式の住棟配置としました。

法規制と事業性・商品性のバランスをとりながら、建物のボリュームを決定するまで何度もスタディを繰り返しました。

緑に溶け込む

既存の立派な植栽を活かした外構計画も本プロジェクトの大きな特徴です。ランドスケープのマスター・プランをF4が行い、つくりこみを事業者が指定した外構設計者が協働で行うことにより、タイルや塗装色のサンプルを何度も作成して検証を行いました。

そして繋がりのある2・3棟目の外観デザインについても街並みを形成する重要なファクターと考えて同時に設計を行いました。建物を縦に分節するデザインとすることで建物の圧迫感を軽減する外観としました。

既存の立派な植栽を活かした外構計画も本プロジェクトの大きな特徴です。ランドスケープのマスター・プランをF4が行い、つくりこみを事業者が指定した外構設計者が協働で行うことにより、タイルや塗装色のサンプルを何度も作成して検証を行いました。

また、外構に溶け込んだ外観とすることで、緑にじむ外壁色とグリーンのガラス手摺を採用しました。工事監理段階では施工者の全面的な協力により、タイルや塗装色のサンプルを何度も作成して検証を行いました。

そして繋がりのある2・3棟目の外観デザインについても街並みを形成する重要なファクターと考えて同時に設計を行いました。建物を縦に分節するデザインとすることで建物の圧迫感を軽減する外観としました。

竣工そして再出発

事業者の多大な熱意と協力もあり、設計者・施工者も含め、チームワークがこの建物の完成度を高めたと思います。まちづくりからディテールのつくり込みまで一貫して携わったことで、設計者としての成長を実感できる貴重な経験となりました。

プロジェクトとしては1棟目が完成し、まだスタートしたばかりです。引き続きプロジェクトメンバーとともにものづくりに励んでいきたいと思います。



スピード感ある現代的なデザインの寺院の実現

卷之三

緑雲寺は一六〇〇年代から新宿区にある由緒ある寺院ですが、今回外苑東通りが四車線に拡張することにより敷地が縮小され、本堂・客殿・庫裡の建物を移築する工事が実施されました。



匠 等	意匠設計	1995年入社
真由美 大介	構造設計	2013年入社
大介	設備設計	1991年入社
	設備設計	2013年入社

SINSYU-OTANIHA
RYOKUUNJI TEMPLE
谷派 緑雲寺本堂・客殿庫裡



三 強 う そ 一 二 三 七
一 が て き か と 想 い て

卷之三

既存本堂の材料を再利用

既存の本堂は戦争で焼けた後、多くの人の寄進により建てられたものでした。戦後の苦しい時代に建てられた皆の想いを残すように、解体後、木材は活かせるものを吟味し、組み直し、本

江戸時代の山門は補修・耐震化
空襲で本堂を含む建物はすべて焼け
堂部分に用いました。また、スパンを
既存の本堂より広げ、現代的で明るく
開放的ながら、年月を経た重厚感も感
じる空間になりました。

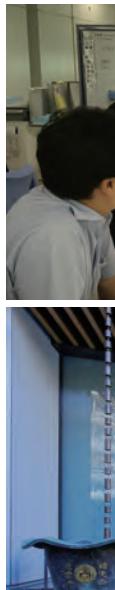
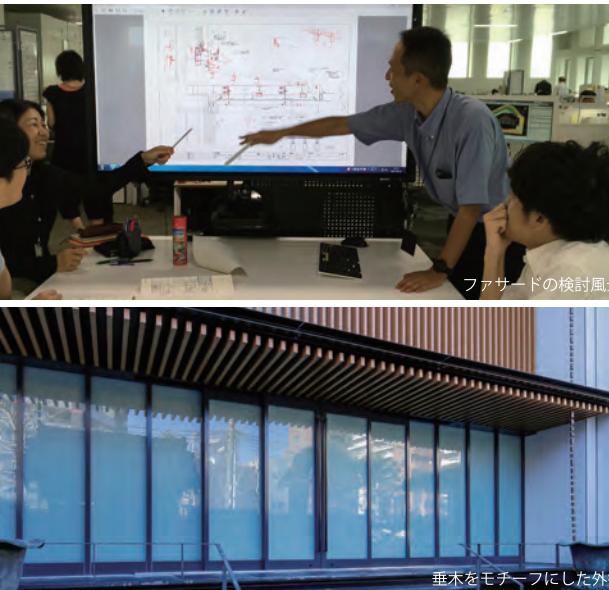
じる空間にしました。

た、構造的な補強を目立たないようにしましたが、山門だけは焼け残りました。江戸時代のものであり、腐朽していましたが、なるべく当時の材を活かしましたが、なるべく当時の材を活かしました上で補修をおこないました。ま

スチール素材で高い耐震性を基準法レ
ベルまであげ、安心して通行できるよ
うにしました。

りが、その間は京都を

意譲した小さな庭園を作りこみました。そこにもお寺の想いの詰まつた既存の参道の石や蹲踞(そんきよ)、天水桶(てんすいおけ)、松の木を配しまして。最近ではお寺の檀家離れが話題になりました。最近ではお寺の檀家離れが話題になりました。最近ではお寺の檀家離れが話題になりました。



THE JAPANESE GARDEN

卷之二

材を用い

A photograph showing a bright, star-like light source, possibly the sun, visible through a window or opening in a wooden-framed structure. The light creates a lens flare effect against a dark background.

卷之三

卷之三

社員全ての人の『〇キロポスト』をめざして

—鉄道×建築×ものづくり—

JR HOKKAIDO PROJECT

MICHIHITO SOUDA / KENTA FUJISHIMA / YASUO HONMA

MASASHI KOUDA

歴史の継承と原風景

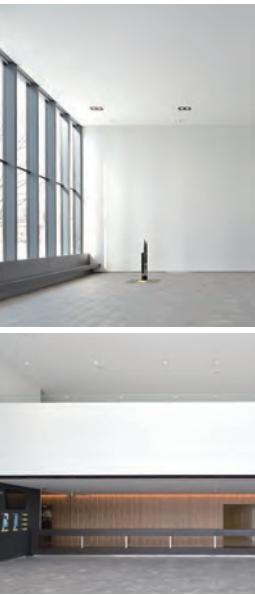


意匠設計 2005年入社
構造設計 2009年入社
設備設計 1995年入社
電気設計 2010年入社

JR HOKKAIDO PROJECT
JR 北海道社員研修センター



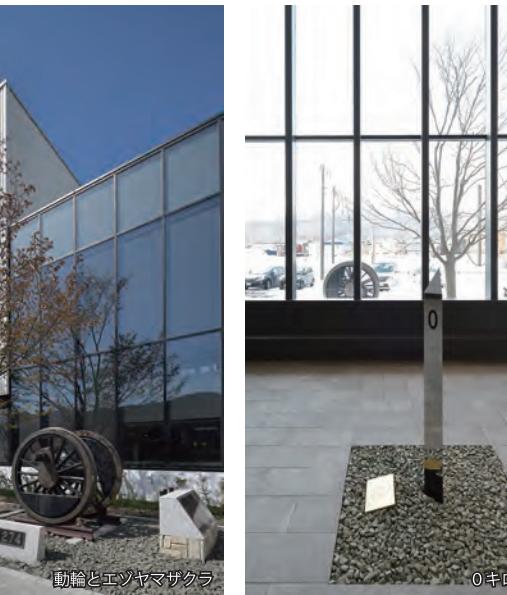
エントランスホール



0キロポスト



エントランスホール



動輪とエゾヤマザクラ

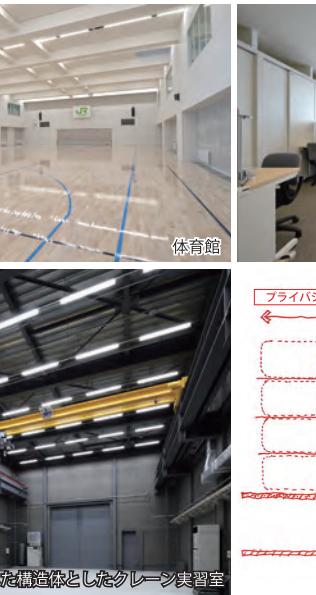


8人部屋(宿泊室)



8人部屋(宿泊室)の考え方

体育館



独立した構造体としたクレーン実習室

外観—函館本線側



竣工時に「たくさんさんの提案ありがとうございました」という言葉を頂きました。採用頂けなかった提案はたくさんありました。しかし、全ての提案に対し、議論を尽くしたものづくりが、クリエイティブのマインドをかたちにできたのではないかと感じています。新しい研修センターが社員の原風景となることを願っています。

マインドをかたちに

「機能的かつ効率的な研修環境」長期滞在研修、日帰り研修、実習研修など様々な研修カリキュラムを機械的かつ効率的に実施できるよう実習・研修・宿泊の特性をもつ3棟構成の建物としています。実習棟は、クレーン実習室の振動・騒音に配慮し、独立した構造体、研修棟は、大スパンとなる体育馆直上の床振動解析、宿泊棟は、設備ルートを確保するため中廊下部分に梁を設けない構法を採用など、各棟に合わせた構造計画としています。また、各棟、用途ごとにエネルギー使用量を把握・分析可能なエネルギー・システム・制御システムを取り入れた設備計画としています。さらに、実物の電車や線路、遮断機、改札機など様々な鐵道に関するものを設置した研修室、実習室をクリエイントと一緒に創りこみました。

機能をかたちにデザイン

「8人部屋の宿泊室」クリエイントの宿泊室への要望は、8人部屋・交流スペース・プライバシー確保の実現です。そこで、限られた空間の中で、就寝スペースを最小限とし、交流スペースを大きくとりました。交流スペースを囲むように個人デスクを配置し、個人のつながりを重視しました。就寝スペースは扉を設け、プライバシーを確保する空間構成としています。図面上は、狭く感じましたが、実際に完成すると、落ち着きのある空間となり、クリエイントに満足して頂きました。

「機能的かつ効率的な研修環境」

長期滞在研修、日帰り研修、実習研修など様々な研修カリキュラムを機械的かつ効率的に実施できるよう実習・研修・宿泊の特性をもつ3棟構成の建物としています。実習棟は、クレーン実習室の振動・騒音に配慮し、独立した構造体、研修棟は、大スパンとなる体育馆直上の床振動解析、宿泊棟は、設備ルートを確保するため中廊下部分に梁を設けない構法を採用など、各棟に合わせた構造計画としています。また、各棟、用途ごとにエネルギー・システム・制御システムを取り入れた設備計画としています。さらに、実物の電車や線路、遮断機、改札機など様々な鐵道に関するものを設置した研修室、実習室をクリエイントと一緒に創りこみました。

「初心に立ち返る基点」は、エントランスホールの「ンセブト」です。設計段階は、動輪（※1）をエントランスホールに設置することを考えていましたが、クリエイントと議論を重ね、ステンレス鏡面の「〇キロポスト（※2）」に自身を映し、「ンセブトを具現化することにしました。（〇キロポストはクリエイントの審美寸模型にて、設置位置の検討を行い、建物入口及びエントランスホールから外部の動輪とエゾヤマザクラが一緒に望むことができる位置に設置しました。〇キロポストを取り囲む社員が主役となるように、エントランスホールは既存研修センター玄関の木目壁をアクセント壁として継承し、空調の吹出口を建築と一体化させ、シンプルな空間とすることで、コンセプトを演出しました。また、木製ベンチ、カウンターを設け、社員の方々が集う空間としています。

※1 動輪…原動機の力を直接受け、回転運動に変換し動く車輪

※2 〇キロポスト…鐵道路線の基点

クリエイントと幾度も案を出し合った「初心に立ち返る基点」

「初心に立ち返る基点」は、エントランスホールの「ンセブト」です。設計段階は、動輪（※1）をエントランスホールに設置することを考えていましたが、クリエイントと議論を重ね、ステンレス鏡面の「〇キロポスト（※2）」に自身を映し、「ンセブトを具現化することにしました。（〇キロポストはクリエイントの審美寸模型にて、設置位置の検討を行い、建物入口及びエントランスホールから外部の動輪とエゾヤマザクラが一緒に望むことができる位置に設置しました。〇キロポストを取り囲む社員が主役となるように、エントランスホールは既存研修センター玄関の木目壁をアクセント壁として継承し、空調の吹出口を建築と一体化させ、シンプルな空間とすることで、コンセプトを演出しました。また、木製ベンチ、カウンターを設け、社員の方々が集う空間としています。

社員研修センターでこのような想いを「原風景」として感じることのできる建築を目指しました。



JR HOKKAIDO PROJECT

MICHIHITO SOUDA / KENTA FUJISHIMA / YASUO HONMA

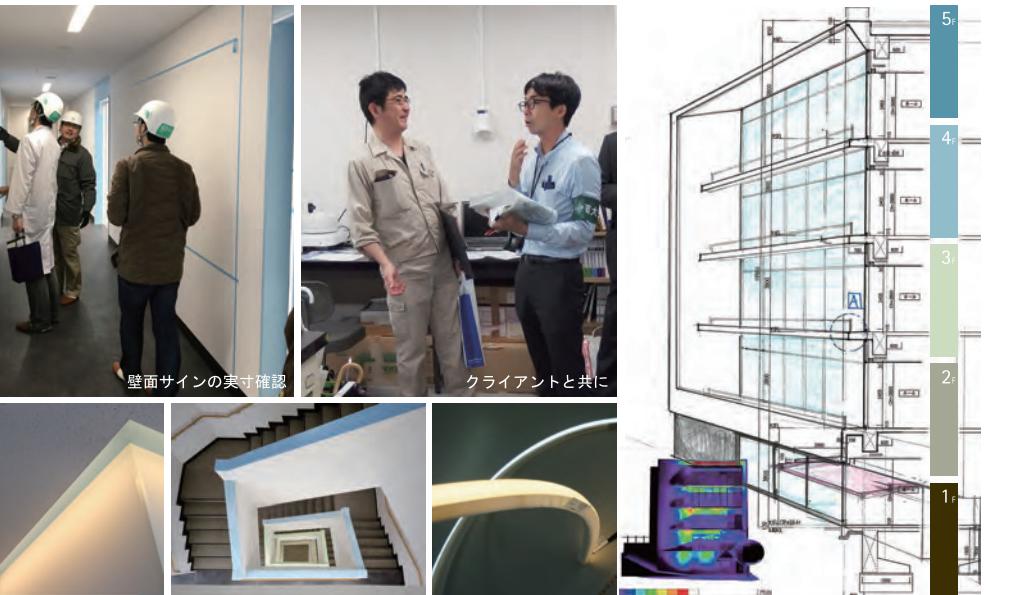
MASASHI KOUDA

キャンパス全体に浮かび上がる創造的な研究活動

— 研究活動が立面となる光のファサードの検討 —

Kobe Pharmaceutical University

TAITO TANI

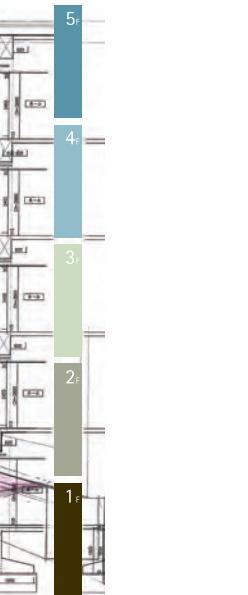


竣工間際の学生の声

「キャンパス全体に浮かび上がる創造的な研究活動」をコンセプトとし、神戸の豊かな自然をモチーフにしたインテリアを背景に、建物を利用する研究者の活動が池に面して浮かび上がるファサードが生まれました。竣工間際、クライアントと一緒に池のまわりにいた際に、学生から歓声が聞こえ、「このキャンパスで学びたい」と感じ、神戸薬科大学の研究活動が益々活性化することを願っています。

本プロジェクトを通じ、これから入学を考える学生が、「このキャンパスで学びたい」と感じ、神戸薬科大学の研究活動が益々活性化することを願っています。

光のファサード



クライアントと共に



谷 泰人
意匠設計 2009年入社
Kobe Pharmaceutical University
神戸薬科大学 8号館



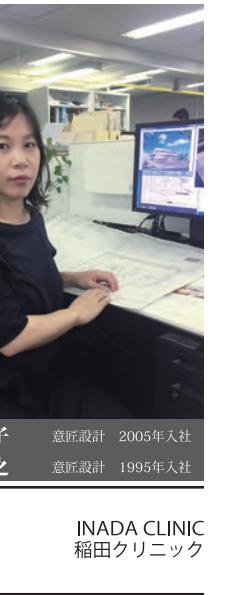
谷 泰人
意匠設計 2009年入社
Kobe Pharmaceutical University
神戸薬科大学 8号館

8研究室それぞれの個性



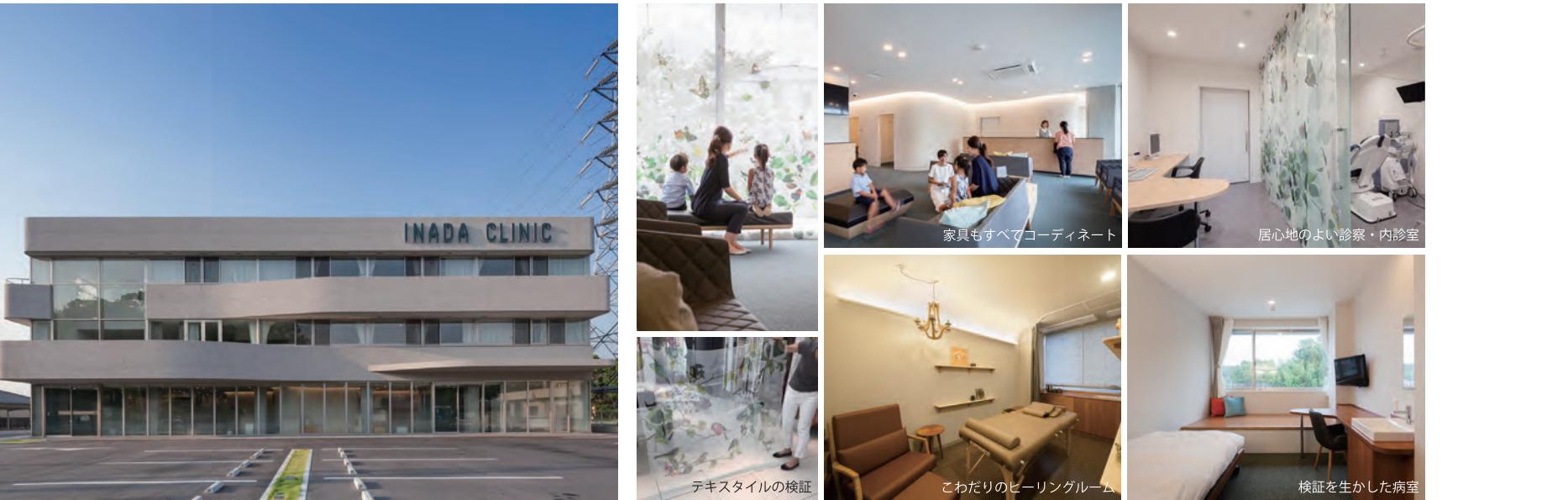
『RIBON』 未来の子供たちへの贈り物

— 産休から復帰し 3代目の思いを具現化する —



乗本 昌子 意匠設計 2005年入社
小原 博之 意匠設計 1995年入社

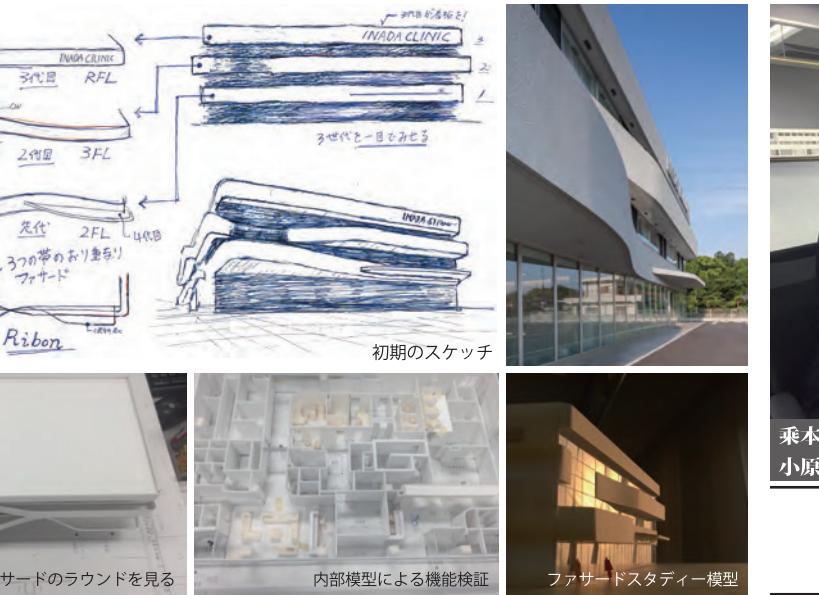
INADA CLINIC
稻田クリニック



「自分」の経験を生かす
1つ1つの空間に
ドクターとともに
機能と空間を作り込む



3代目ドクターの新たな出発
そして「RIBON」につつまれた
～未来への贈り物～
「REBORN」



3代目ドクターの新たな出発
そして「RIBON」につつまれた
～未来への贈り物～
「REBORN」

このプロジェクトは先代の意志を引き継ぎ、産婦人科医療にて地域に貢献するという思いを抱く3代目のドクターと我々が出会うことからはじまりました。病院を立ち上げ地域住民に親しまれた父、その病院を引き継ぎ皆に期待された3代目の父が亡くなり、その想いを胸に地域戻り産婦人科クリニックを立ち上げます。

3代目ドクターの新たな出発

このプロジェクトは先代の意志を引き継ぎ、産婦人科医療にて地域に貢献するという思いを抱く3代目のドクターと我々が出会うことからはじまりました。病院を立ち上げ地域住民に親しまれた父、その病院を引き継ぎ皆に期待された3代目の父が亡くなり、その想いを胸に地域戻り産婦人科クリニックを立ち上げます。

施主の想いに『手のづくり』で応える

Toshiba-Machine Gotenba Technical Center
YASUSHI KOBAYASHI

「ものづくり」への気概

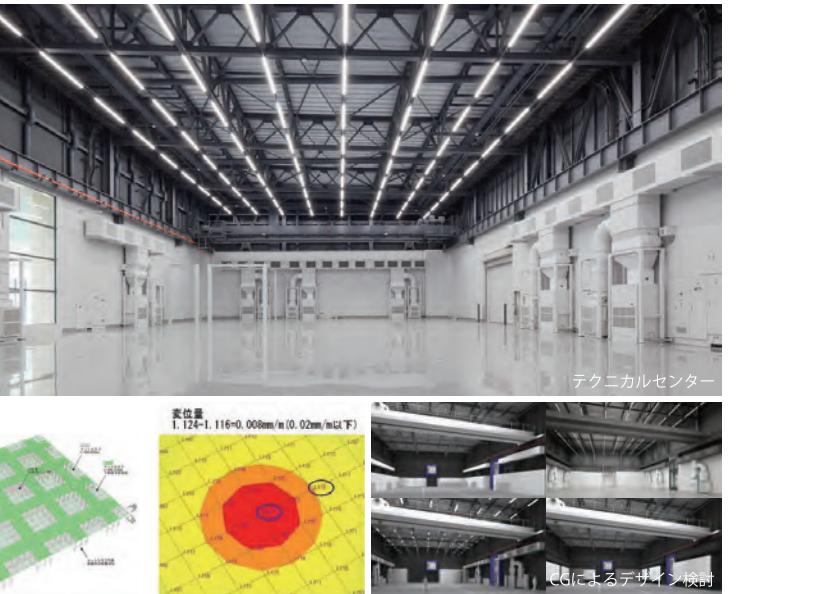
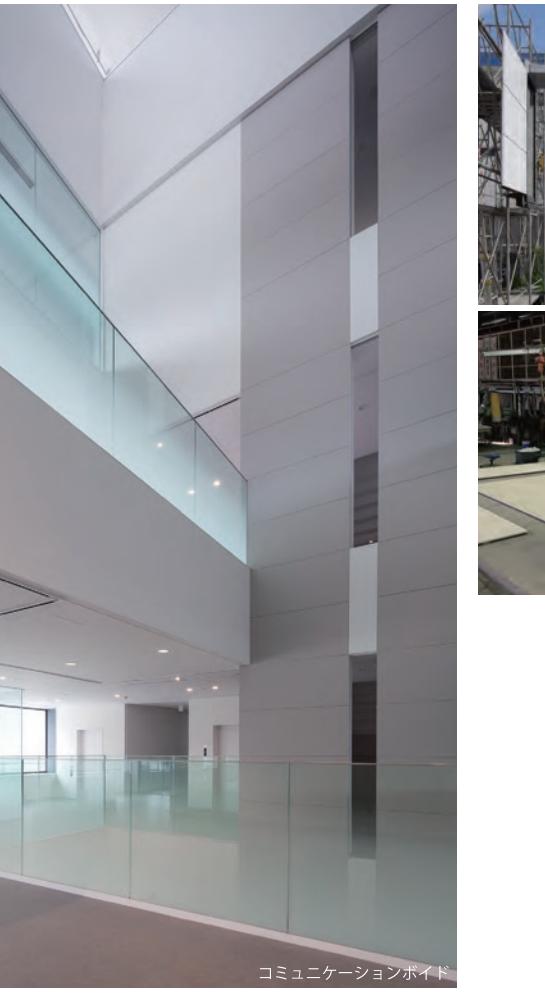
富士山を望む総合機械メーカーの研究開発施設を情報発信拠点とし「開かれた併まい」をコンセプトに計画。建物は大きく2つの用途から成り、吹抜を中心にコミュニケーション&コラボレーションを促すオフィス、高い剛性の床+高精度温湿度管理可能なテクニカルセンターを一体的に設計しました。

2017年春のソリューションフェアで使用する目標のもと、「ハペから竣工まで16ヶ月というスピードで実現する必要がありました。主担当として、設計業務はもちろんコストコントロールやスケジュール調整等、マネジメントにも気を配り全体を纏め多くの経験を積むことができました。



Toshiba-Machine Gotenba Technical Center
東芝機械 御殿場 テクニカルセンター

—施主とともに進めたものづくり—

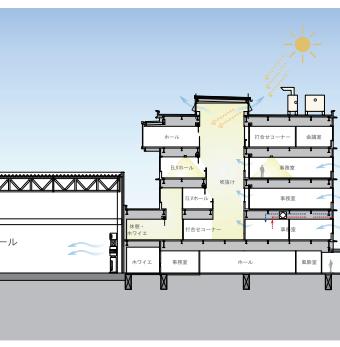


「手」で練るデザイン

エントランスホールには、ガラスカーテンウォールと2層吹抜けの大石の壁でシンプルな構成ながら品格を感じられる設えを目指しました。大理石は温かみのあるベージュ系を選定し、敷き並べ検査により色ムラを調整し現地施工に臨みました。

「手」で見て、ものを決める

テクニカルセンターは数ミクロロンの精度に挑む工作機械のための空間です。その為、床剛性と温湿度環境には高いスペックが求められました。床は構造解析の結果、格子状改良の上にマットストラップを構築することで対応し、温度環境は空調・シミュレーションを行い、床置きパッケージによる成層空調が最適と判断しました。しかし、これらの機能を商品プレゼンテーションの場に相応しい設えに纏めることに苦労しました。機能とコストとデザインを加味してGとのタタキーを繰返し最終形に到達しました。



伝統とモダンをテーマに

—新しいデザインで記憶をつなぐ—

生き生きと創ることで

よりよい建築に

今井 先行して建替られた南館に続

き、今回の建替え（左ページ写真手前建物）によって、ぬ利彦さんの想いが完成する。そこにどう我々のデザインが役に立てるのか、考えました。

外装の考え方はつながるとして、設計者は自分の創造を発揮してこそエネルギーが注がれます。さらに、これらこの地との絆を紡いでいく関係される方が、なるほど！と満足して、お引渡ししてから大切にしてもらわうことも大切です。

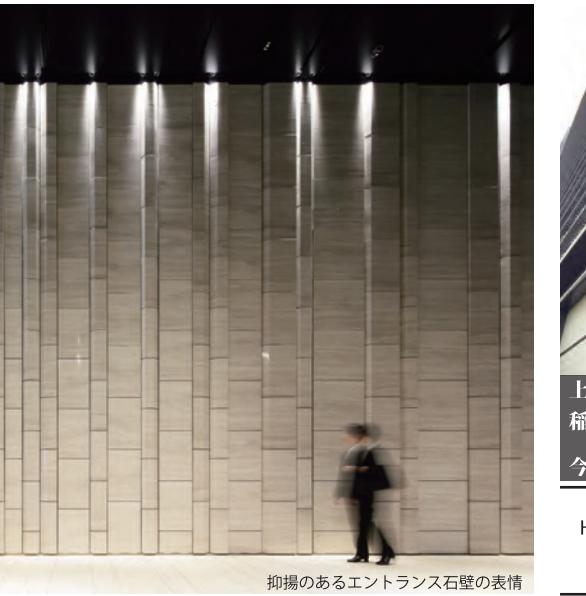
担当の上田君と稲葉君とは、モダンであることと同時に、京橋という土地をイメージし、江戸・日本人の感性を重ねてできる新たなデザインに挑戦することを目標として、共有しました。

上田 ぬ利彦社長さんより伺ったのは、南館に通じるエントランス位置には、かつて通り抜けの路地あつたとのことです。

その路地がオフィスのエントランス空間に生まれかることになります。重厚でありつつ繊細な模様のダークセラベという大理石を、細長いプロポーションにし、石の厚みを変える、斜めにカットする、表面仕上げを磨き仕上げマットにする等、変化をつけました。石の斜めカット部の上部から鋭角に照明を当て、均一でない、抑揚のある印象的な空間を目指したのですが、その為の効果的な照明器具を選ぼうと、メーカーのショールームに出向き、照明器具の選択とその当て方を試行錯誤しました。そして表れた不均質な縞の空間は、瑞々しい印象で、どこか日本的になったのではないかと思います。

かつてあつた通り抜けの路地

54
vol.77



上田 昌弘
稲葉 秀行
& 今井 宏

意匠設計 2004年入社
意匠設計 2014年入社
意匠設計 1996年入社



照明メーカーで光の効果を確認

PC工場で外壁コーナーの検査



55
vol.77

建築好きがさらに好きに

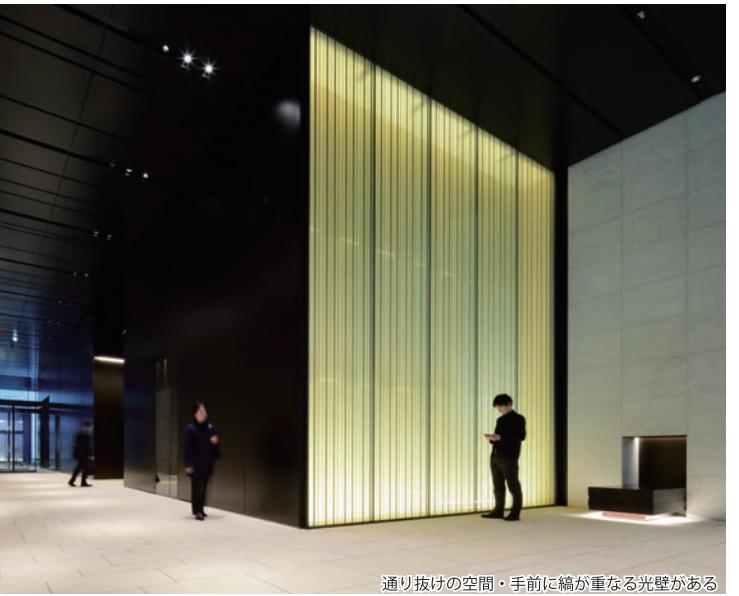
稲葉 私は入社3年目の終わりとともに本計画が完成しました。設計や監理中は、外装のコーナーの暖簾のようなデザインや、縞が重層したエンタランス正面の光壁、内装各所のデザインなど、今思えば、手が込んだ設計の経験をしました。

私はBIMやCGに慣れてきてるので、自ら作成して比較したり、今井や上田とディスカッションしたり、プレゼンも行いました。カラースキームでは、カーペットひとつにしても多様なメーカーがあり、数多くの中から、イメージをつくり、素材を選び、並べてみてトータルの空間をどう創り上げていくのか、良い経験が早くでき、それは自分の大きな糧になったと思います。

現実のものが出来ていくことは、模型やCGとは、別の感動があります。私は様々な建築を見て歩くことが好きですが、それらを設計した設計者が、どんなことを考え、苦労したり、喜んだのか、イメージできようになり、経験はすごく大切な感じています。この建物は清水建設の本社の目の前ですが、眺める度、この時の経験がいつまでも呼び起されるだらうと思います。



2棟並んで街並みに



通り抜けの空間・手前に縞が重なる光壁がある



上田 昌弘
稲葉 秀行
& 今井 宏

意匠設計 2004年入社
意匠設計 2014年入社
意匠設計 1996年入社

HITACHIBUTURYU BUILDING
日立物流ビル

「ハーフレーン」形にする企業の理念

—検討するお客様のための形・素材・色・光—



志村 美治 インテリアデザイン 1979年入社
井筒 英理子 インテリアデザイン 1989年入社

Dental Plaza Osaka
Renovation of Showroom
デンタルプラザ大阪
ショールーム リノベーション

白

インテリアもプロダクトもニコートラルな白で統一する事は、時代に左右されず、全てをフラットに比較検討するための機能といひえました。

実際の診療スペースを想定した遠目には透けながら、近くでは視線を切るエキスピンドメタルスクリーンは大阪の工場の技術により生まれました。

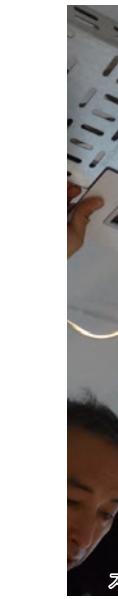
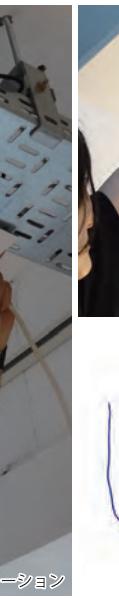
回遊動線のなかで、緩く仕切られたシーンが次々に変化する事はお客様の気持ちの整理や切り替えを助けながらも、思考を完全に断ち切らない設えとなりました。



個々のお客様にあわせて必要なものを取り出して紹介するというお客様優先の営業スタイルが社員を育て、企業理念の理解を深めると考えました。



駐車場の一部を中心とする事でラウンジと自然をアタッチさせる計画は、お客様の心を解きほぐすためであり人の体に触れるものを扱う企業としてのテクノロジーと自然とのバランスを取りの姿勢を表したものです。



このショールームは「すべてのテクノロジーは人を中心であるべき」という製品開発の哲学のもと、歯科診療環境に革命を起こした患者が横になり歯科医師が座って診療する「水平診療システム」を開発し今なお進化し続けるパオーマンスロジックによるpd styleの思想を社員へ継承して、ヒューマン・シップドあるべきと考へました。



『開かれたボーリングパーク』を目指して

卷之三

AGER

浅井	意匠設計	2001年入社
杉山	意匠設計	2004年入社
望月	意匠設計	1997年入社
大木	開発計画	2014年入社

AMA STADIUM PROJECT
スタジアムプロジェクト

ボールパーク化構想の実現
本プロジェクトは、2020年東京五輪の会場に選定された横浜スタジアムの改修コンペを行い入手したプロジェクトです。

The image is a composite of three photographs. The top half shows a wide-angle view of the new Orix Stadium at night, with the illuminated blue seats and green field against a dark sky. The bottom left shows the interior of a private viewing room with people seated around tables, looking out through large windows at the stadium. The bottom right shows a partial view of the stadium's interior, focusing on the seating area.

建築とまちづくりの

1



CLEAN CENTER 清掃工場建替計画

教
學
法

キシン対策法の制定もあり、「う處理するのか?」が社会的

あり、私は研究テーマを「清掃工場」に決めました。学生になり色々苦慮しました。

それから17年後、「日黒清掃工場のコソベがある」との話を聞き、志願して

迷惑施設からウエルカム施設へ

です。清掃工場は市民にとって必要不可欠な施設ではあるが、決して歓迎さ

清掃工場を積極的に開放して、市民が自由に利用できる「公園のような清掃

THE JOURNAL OF CLIMATE

時間と空間をつなぐ豊洲まちづくり物語

ー仲間とともに紡がれるまちづくりへの想いと戦いー

はじめは大街区化一体再開発



City planning story of TOYOSU
豊洲まちづくり物語



丸山 柚香 開発計画 2010年入社
宮原 夢未 開発計画 2011年入社



NBF豊洲ガーデンフロント公開空地



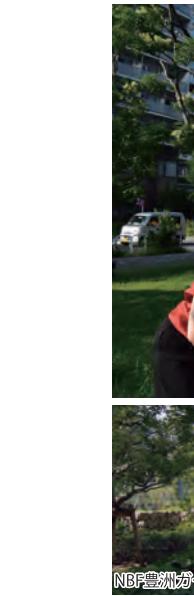
緑豊かな歩行者通路



豊洲のまちづくりを進めてきた多世代にわたるメンバーやから・丸山・國嶋・町井・渡辺(左)・宮原(右)



豊洲のまちづくりを進めてきた多世代にわたるメンバーやから・丸山・國嶋・町井・渡辺(左)・宮原(右)



緑もデザイン、豊洲5丁目景観ガイドライン



緑もデザイン、豊洲5丁目景観ガイドライン



始まりはここから。豊洲5丁目に置ける施工案件



NBF豊洲キャナルフロント



SIA豊洲プライムスクエア



ルミレイス豊洲



豊洲シエルタワー



豊洲6丁目3街区

豊洲5丁目

新たなまちづくりの幕開け

丸山 地権者企業と共にまちのあるべき姿を考え、地域住民と会話し、プロジェクトに企画構想段階から設計、施工、維持管理まで一気通貫で開発に携わる。手がけた建物が地域に挿入されることで、建物と連携した質の高い公共空間を醸成し、時間と空間つなぎ地域の魅力向上と活性化を目指しています。この取り組みは社会の信頼を得るために親しまれる歩行者空間として利用されています。

当社まちづくりのモデル

町井 都市計画策定を機に、地元との良好な信頼関係が構築され、後に続く豊洲エリアでの当社の活動が支持され期待されています。豊洲駅前の5丁目地区では六棟の開発を手掛け「景観形成」を、新豊洲駅周辺の6丁目3街区では四棟の開発を手掛け「環境防災」といった当時の社会や都市の課題解決に取り組みました。

宮原 二〇一七年、これまでの歴史を受け継ぎ、水辺や緑に囲まれ、当社技術力ノハウを活かす新たなプロジェクトが始動します。

新たなまちづくりのモデル

國嶋 地域らしさを考え策定された景観ガイドライン案を導定し、高さと壁面線を抑え、多様なオープンスペースをつなぐ景観を形成しています。高容積率を追及せず、整形大型ブレードを持ち、地下ではなく、地上の緑のなかに駐車場を配置した高いコストパフォーマンスの建物や、うるおいの木陰道路から連続する水辺への緑道は地域に親しまれる歩行者空間として利用されています。

景観まちづくり

國嶋 地域らしさを考え策定された景観ガイドライン案を導定し、高さと壁面線を抑え、多様なオープンスペースをつなぐ景観を形成しています。高容積率を追及せず、整形大型ブレードを持ち、地下ではなく、地上の緑のなかに駐車場を配置した高いコストパフォーマンスの建物や、うるおいの木陰道路から連続する水辺への緑道は地域に親しまれる歩行者空間として利用されています。

民間提案による都市計画策定

國嶋 二〇〇六年にSIA 豊洲プライムスクエア計画が、土地売却を機に動きます。当社への設計施工プロジェクトによる地区の起点開発が始めます。二つの当社設計施工プロジェクトは、他社が不可能とした規制緩和を得ない危機的状況に陥りました。しかし、当時の協議会代表幹事の「こういう時は線香に火を灯すよう」の言葉に会員の結束が高まり、段階開発を前提にまちづくりを摸索することに。当社は、機会を活用して企業連携を絶やさぬよう、定期的な勉強会を重ね続けました。

大きな試練

町井 やはり辛かったのは、一九九二年のバブル崩壊。土地を手放す会員企業も出始め、協議会解散もやむをえない危機的状況に陥りました。しかし、当時の協議会代表幹事の「こういう時は線香に火を灯すよう」の言葉に会員の結束が高まり、段階開発を前提にまちづくりを摸索することに。当社は、機会を活用して定期的な勉強会を重ね続けました。

駅前再開発と投資開発プロジェクト

國嶋 二〇〇六年に入ると、豊洲シエルタワー、NBF 豊洲キャナルフロントによる地区の起点開発が始まります。二つの当社設計施工プロジェクトは、協議会の自主開発ルールを先行適用し、駅前や水辺の拠点性を備え、オープンスペース連携の起点となり後開発モチルとして実現しています。

民間提案による都市計画策定

國嶋 二〇〇六年にSIA 豊洲プライムスクエア計画が、土地売却を機に動きます。当社への設計施工プロジェクトによる地区の起点開発が始めます。二つの当社設計施工プロジェクトは、他社が不可能とした規制緩和を得ない危機的状況に陥りました。しかし、当時の協議会代表幹事の「こういう時は線香に火を灯すよう」の言葉に会員の結束が高まり、段階開発を前提にまちづくりを摸索することに。当社は、機会を活用して定期的な勉強会を重ね続けました。

大きな試練

町井 今から約三十年前。豊洲エリアは、高度成長期を支えた工場倉庫群から職住複合のまちへ土地利用転換の機運が高まっていました。私は、豊洲5丁目地区の地権者と地元自治会に声をかけ、約15haの一体大規模開発を目指して開発協議会を発足、事務局を務め、まちづくりの検討を始めました。

はじめは大街区化一体再開発

アは、高度成長期を支えた工場倉庫群から職住複合のまちへ土地利用転換の機運が高まっていました。私は、豊

日本建築学会コンペで最優秀賞受賞！

一 細得しくまで考え抜いて生まれた才人ノ力也

課題は「ユニーク・ソーシャル・サービスを支える環境技術～多様な利用者の安全快適な環境デザインをめざして～」。
21世紀の成熟社会を真に豊かな社会とするこことを目的に、多様な人間の「五感」を活かして多様な提案が求められる。

「三月」スミナーフラントが開かれました。

みんなで「みんなのために」を考える

に対しメンバー内外問わず多くの人と会話をし、より深い議論の中から自分がなりの回答を見つけるか。それは泥

奥く、とても時間がかかりります。しかし、その過程を踏まないアイデアでは深みがせず、信念のない提案となつてしまします。

私たちにはアイデアを出し合う前に、

ユニーク・ソーシャル・ソリューションズの代表である高橋洋一は、「みんなのために」ある社会とはどういったものか?という議論について、メンバーで何度も議論をしました。メンバーは年齢も性別も専門分野も異なっているため、多様な考えが出来ましたが、さらに一歩視野を広げ、ユニーク・ソーシャル・ソリューションズの活動をより多くの人に見てもらうため、SNSでの情報発信を始めたのです。

バーサルに資する技術開発をしている技術研究所の方にもヒアリングを行ない、技術を学び情報を集めました。その結果、私たちが出した答えは「個人の快適性を高めながらも、コミュニケーション」

もしもこんなカサがあつたら…
アイデアを出し合う段階に入り、
早々に出てきたのは「カサ」という
かけをつくる社会」でした。

キーワードでした。カサはパーソナルな空間を形成しやすい形状でありながらも、周囲とのつながりを維持できるという点で可能性を感じました。

そこからは、秦・光・周・音などの環境要素と「力サ」の化学反応を模索し続けました。

きこえやすい、きにならない
を実現するオトノカサ

人は生まれてから死ぬまでに様々な音バリアに出会います。赤ちゃんは泣くことで周囲に自分の意志を伝えますが、公共の場では迷惑に感じる人もいたり、高齢者になれば聴力低下から会話がづつ、なります。

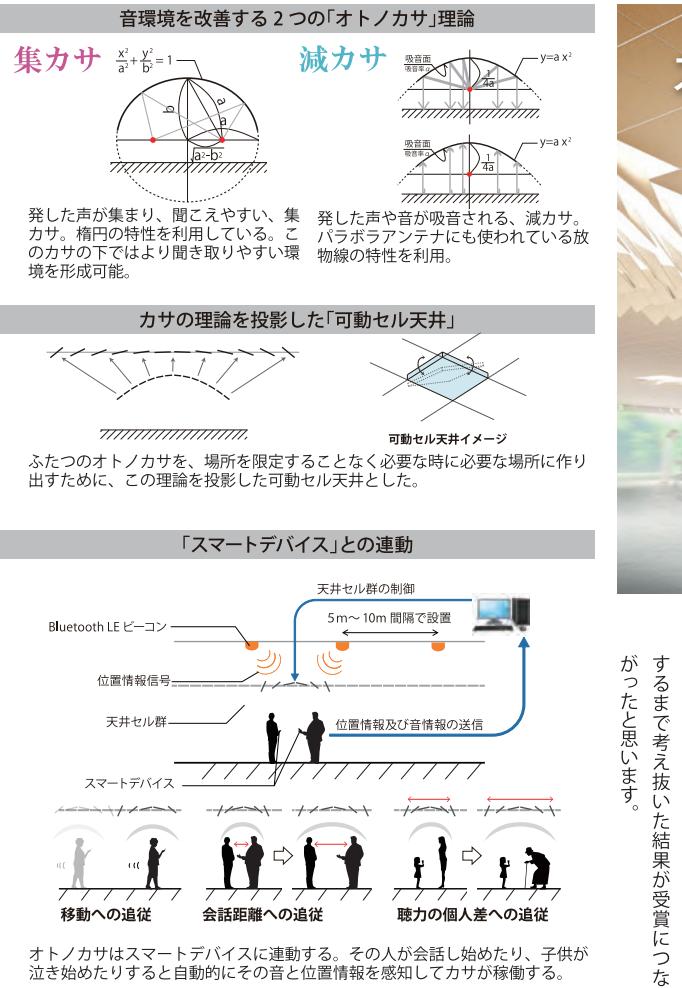
オトノカサハはそいつた環境を改善します。発した声が集まりきこえやすくなる「集力サ」、発した声が吸音され気にならなくなる「減力サ」は、スマホとの連動により、必要な時に必要な音量(音量)、トーン(トーン)を

要な場所は構築でき、シームレスな空間間に快適な音環境を創り出します。

の？とよく聞かれます。ぶつかった
ら、やはりカサの効果は下がります。
しかし、その時は距離を取つてもらえ
ば良いと思っています。

私たちが実現したかったのは、個々
の空間に閉じこもるのではなく、多少

干渉し合いながら共生する社会です。



Competition 部門設計競技 「オトノカサ」

日本建築学会技術部



デンタルプラザ大阪 ショールームリノベーション^{1,2}
建築主：株式会社モリタ
主要用途：事務所
延床面積：439.4 m²
構 造：RC造
規 模：ショールーム1階
竣工年：2016年
所在地：大阪府吹田市垂水町3-33-18



JR北海道社員研修センター
建築主：JR北海道旅客鉄道株式会社
主要用途：研修施設
敷地面積：12,193.51 m²
建築面積：6,550.69 m²
延床面積：17,871.08 m²
構 造：S造
規 模：地上7階
竣工年：2016年
所在地：北海道札幌市手稲区猿1条3丁目



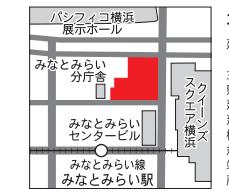
国際基督教大学 桜寮・楓寮^{2,3}
建築主：学校法人国際基督教大学
主要用途：寄宿舎（一部大学）
敷地面積：659,865.64 m²
建築面積：2,250.54 m²
延床面積：11,078.90 m²
構 造：RC造・一部S造
規 模：地上27階・地下2階
竣工年：2017年
所在地：東京都三鷹市大沢3-10-2



(仮称)ソラリア西鉄ホテルバンコク¹
建築主：西日本鉄道株式会社
主要用途：ホテル
敷地面積：1,696 m²
建築面積：651 m²
延床面積：16,740 m²
構 造：RC造
規 模：地上27階・地下2階
竣工年：2020年
所在地：タイ王国 バンコク都



流通経済大学 龍ヶ崎キャンパス 2号館^{2,3}
建築主：日通学園
主要用途：学校(大学)
敷地面積：109,367.26 m²
建築面積：2,111.67 m²
延床面積：4,772.00 m²
構 造：RC造・一部S造
規 模：地上8階・地下1階
竣工年：2017年
所在地：茨城県龍ヶ崎市平沼120



オーシャンゲートみなとみらい³
建築主：東急不動産株式会社
主要用途：事務所・店舗・保育所・駐車場
敷地面積：7,058.34 m²
建築面積：4,996.36 m²
延床面積：55,251.49 m²
構 造：S造
規 模：地上15階・塔屋1階
竣工年：2017年
所在地：横浜市西区みなとみらい3-7-2

*1 他社協働(設計:清水建設)

ドーミーイン宮崎
共立エスティート一級建築士事務所
リンナイ北海道支店
ショールーム内装設計：ツマックデザインファクトリー建築設計事務所 妻倉 倦司
(仮称)ソラリア西鉄ホテルバンコク
建築(申請)：ARSOMSILP
構造(申請)：AURECON
設備・電気(申請)：AURECON

インテリア：MS Design
ランドスケープ：On Ground
ファサード：AURECON
照明：LD49
音響・振動：RTA

ジャカルタ・オフィスタワープロジェクト(仮称)
KPF(KOHN PEDERSEN FOX)
順天堂大学医学部附属浦安病院 3号館
株式会社日本設計
グランドメゾン浄水ガーデンシティ フォレストゲート I
手島建設設計事務所

デンタルプラザ大阪 ショールームリノベーション
インダストリアルデザイナー：f/p design
ライティングデザイナー：LIGHTDESIGN,Inc

*2 インテリアデザイン：フィールドフォー・デザインオフィス

*3 ランドスケープデザイン：フィールドフォー・デザインオフィス

*4 撮影

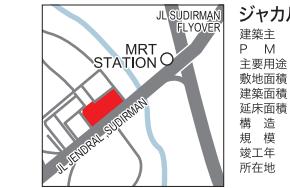
日立物流ビル
SS 東京



神戸薬科大学 8号館
建築主：学校法人神戸薬科大学
主要用途：大学
敷地面積：35,130.44 m²
建築面積：848.07 m²
延床面積：4,075.81 m²
構 造：RC造
規 模：地上5階
竣工年：2017年
所在地：兵庫県神戸市東灘区本山北町4-19-1



ホテルニューグラン本館改修工事
建築主：株式会社ホテル・ニューグラン
主要用途：ホテル
敷地面積：5,005.6 m²
建築面積：2,418.6 m²
延床面積：9,994.6 m²
構 造：SRC造・RC造・一部S造
規 模：地上20階・地下2階
竣工年：2016年
所在地：JL SUDIRMAN FLYOVER MRT STATION



ジャカルタ・オフィスタワープロジェクト(仮称)¹
建築主：森ビルグループ
P M : 森ビル株式会社
主要用途：事務所・商業施設
敷地面積：8,013 m²
建築面積：4,398 m²
延床面積：186,000 m²
構 造：RCコアフォール・S造・柱SRC造
規 模：地上58階・地下4階
竣工年：2021年
所在地：JL JENDRAL SUDIRMAN KAV.40-41, JAKARTA INDONESIA



横浜野村ビル^{2,3}
建築主：野村不動産株式会社
主要用途：事務所・物販店舗・飲食店
敷地面積：8,962.4 m²
建築面積：5,726 m²
延床面積：81,547 m²
構 造：S造
規 模：地上7階
竣工年：2017年
所在地：神奈川県横浜市西区みなとみらい4-4-11



清水建設 ものづくり研修センター³
建築主：清水建設株式会社
主要用途：研修所
敷地面積：1,325.01 m²
建築面積：704.92 m²
延床面積：940.53 m²
構 造：S造
規 模：地上2階
竣工年：2016年
所在地：東京都江東区木場2-15-3



稲田クリニック
建築主：医療法人稻祥会
主要用途：診療所(産科・婦人科・小児科)
敷地面積：1,857.24 m²
建築面積：598.76 m²
延床面積：1,636.00 m²
構 造：RC造
規 模：地上3階
竣工年：2016年
所在地：和歌山县和歌山市和田461



沢井製薬 三田西工場²
建築主：沢井製薬株式会社
主要用途：医薬品工場
敷地面積：23,139.07 m²
建築面積：7,339.94 m²
延床面積：22,050.19 m²
構 造：SRC造
規 模：地上4階
竣工年：2015年
所在地：兵庫県三田市テクノパーク18-8



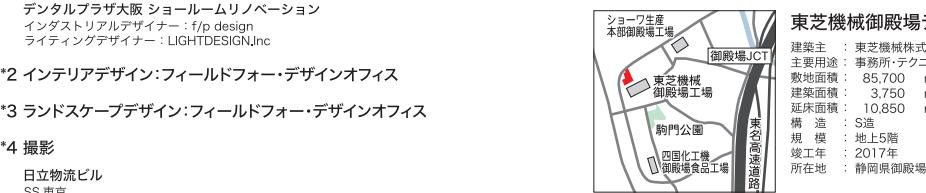
フクシア八重洲²
建築主：株式会社マックスパート
主要用途：貸会議室
敷地面積：2,930 m²
建築面積：5,106.2 m²
延床面積：5,318.35 m²
構 造：RC造
規 模：地上10階
竣工年：2017年
所在地：東京都中央区八重洲2-4-1ユニゾ八重洲ビル3F



ドーミーイン宮崎^{1,2}
建築主：宮崎都市開発株式会社
主要用途：ホテル
敷地面積：3,209.33 m²
建築面積：5,106.2 m²
延床面積：5,310.17 m²
構 造：S造
規 模：地上12階
竣工年：2017年
所在地：宮崎県宮崎市橋通西2-5-32



sittate sapporo 札幌フコク生命越山ビル
建築主：富国生命保険相互会社
有限公司 恵山ビルディングズ
主要用途：店舗・事務所
敷地面積：1,654.32 m²
建築面積：1,370.17 m²
延床面積：18,844.44 m²
構 造：S造
規 模：地上13階・地下1階
竣工年：2017年
所在地：北海道札幌市中央区北2条西3-1-20



東芝機械御殿場テクニカルセンター^{2,3}
建築主：東芝機械株式会社
主要用途：事務所・テクニカルセンター
敷地面積：85,700 m²
建築面積：3,750 m²
延床面積：10,850 m²
構 造：S造
規 模：地上5階
竣工年：2017年
所在地：静岡県御殿場市駒門



グランドメゾン浄水ガーデンシティ フォレストゲート I¹
建築主：横水ハウス株式会社
共同事業主：福岡マンション事業部
主要用途：共同住宅
敷地面積：3,260.35 m²
建築面積：1,248.66 m²
延床面積：4,479.13 m²
構 造：RC造
規 模：地上5階
竣工年：2017年
所在地：福岡県福岡市中央区薬院4-13-63



愛育レディースクリニック²
建築主：株式会社Mitra
主要用途：診療所(有床)
敷地面積：1,141.30 m²
建築面積：618.19 m²
延床面積：1,735.64 m²
構 造：RC造
規 模：地上3階
竣工年：2016年
所在地：千葉県船橋市習志野5-8-16



リナハイ北海道支店¹
建築主：リナハイ株式会社
主要用途：事務所
敷地面積：2,158.57 m²
建築面積：1,092.96 m²
延床面積：2,129.92 m²
構 造：S造
規 模：地上2階
竣工年：2015年
所在地：北海道札幌市中央区南7条東1丁目



スノーピーク オペレーションコ HQ2
建築主：株式会社スノーピーク
主要用途：工場
敷地面積：20,950.99 m²
建築面積：8,835.93 m²
延床面積：10,281.93 m²
構 造：S造
規 模：地上2階
竣工年：2017年
所在地：新潟県見附市新幸町5-8



日立物流ビル⁴
建築主：みづほ信託銀行株式会社
主要用途：事務所
敷地面積：1,297.49 m²
建築面積：1,151.97 m²
延床面積：11,723.55 m²
構 造：S造
規 模：地上10階・地下1階・塔屋1階
竣工年：2017年
所在地：東京都中央区京橋2-9-2



真宗大谷派 緑雲寺 本堂・客殿庫裡
建築主：宗教法人綠雲寺
主要用途：寺院
敷地面積：428.68 m²
建築面積：295.35 m²
延床面積：561.34 m²
構 造：S造
規 模：地上10階・地下1階
竣工年：2017年
所在地：東京都新宿区原町1-30-1



順天堂大学医学部附属浦安病院 3号館^{1,2,3}
建築主：学校法人順天堂
主要用途：病院
敷地面積：19,834.72 m²
建築面積：3,738.30 m²
延床面積：18,907.83 m²
構 造：S造(RCST構法)・一部RC造
規 模：地上9階・地下1階
竣工年：2017年
所在地：千葉県浦安市富岡2-1-1



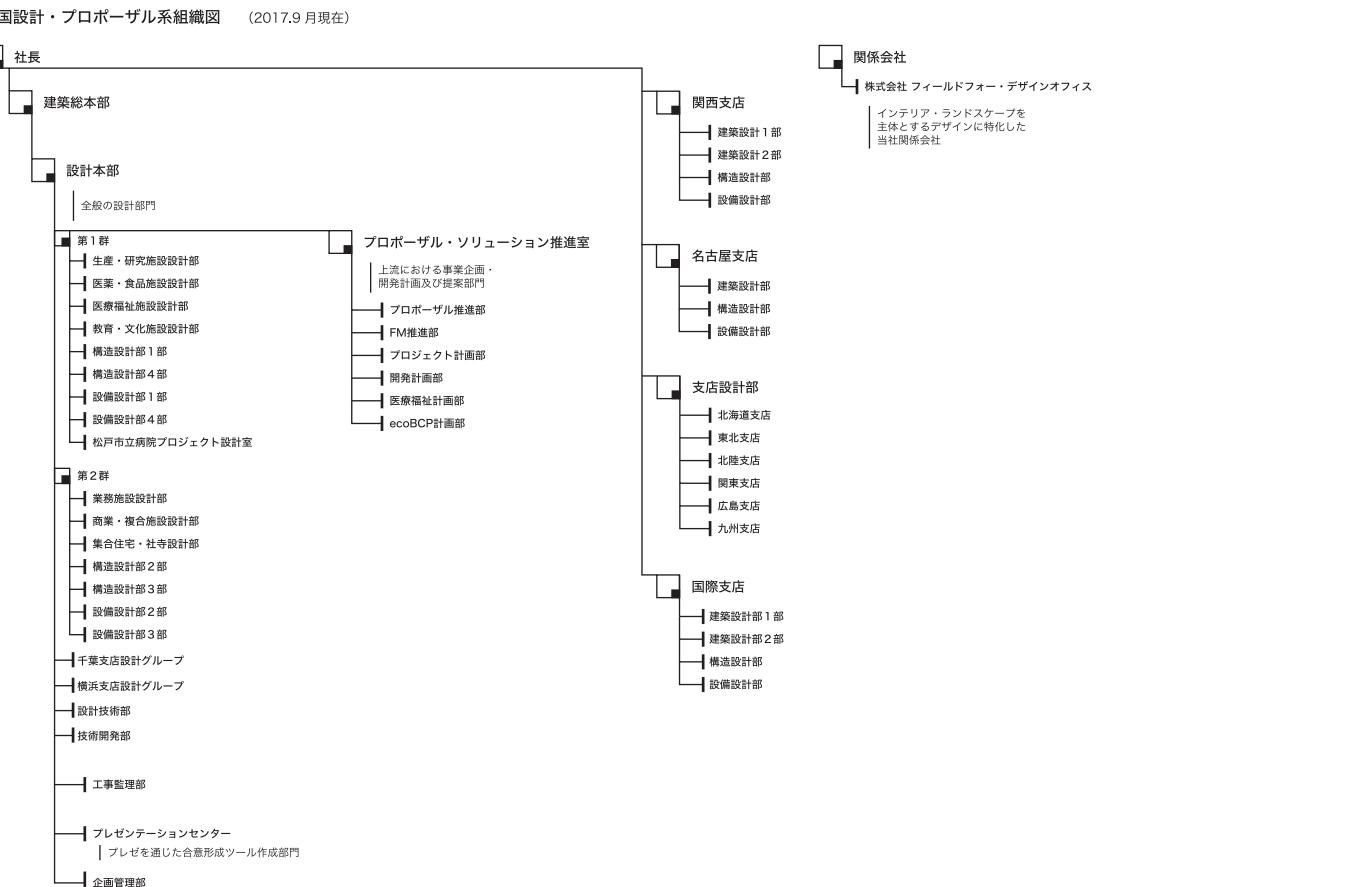
JRさいたま新都心ビル²
建築主：東日本旅客鉄道株式会社
主要用途：事務所・物販店舗・飲食店・ホテル・プライバル施設
敷地面積：4,919.84 m²
建築面積：1,360.12 m²
延床面積：29,353.12 m²
構 造：S造
規 模：地上20階・地下2階
竣工年：2017年
所在地：埼玉県さいたま市中央区新都心11-1



高岡信用金庫本店
建築主：高岡信用金庫
主要用途：信用金庫の本店・事務所
敷地面積：2,793.36 m²
建築面積：1,861.62 m²
延床面積：4,312.76 m²
構 造：RC造・S造
規 模：地上5階
竣工年：2017年
所在地：富山县高岡市守山町68

発行日 2017年10月
 編集・発行 清水建設株式会社
 /設計本部
 〒104-8370 中央区京橋2-16-1
 03-3561-1111(代)
 編集事務局 設計本部
 企画管理部
 印刷所 (株)ビーディーシステム
 年1回発行予定

非売品



委員長 今井 宏
 副委員長 及川 直哉
 委員 藤原 寛
 佐藤美奈子
 白浜 晋平
 谷 庄洋
 玉田 翔也
 下坂 裕美
 加持 亮輔
 笹村 佳央
 井野 裕也
 宮原 夢未
 太田 望
 南口 真一
 富越 大介
 笹部 和代
 佐藤 正博
 成田 政杜
 野田正太郎
 堀田 泰治
 田代 直人
 馬場 あさひ
 井原 直
 藤井美咲子
 石倉 敦
 三澤 直也

stream DEW

「潮流=ストリーム(stream)の源流は零(DEW)にある。」

「個々人の創造性発露が社員相互の啓発・情報共有の源であり、それが大きな流れとなる」という意味をこめて、2007年に命名。

